

道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事実施設計図

番号	意匠設計図面
A-00	図面リスト
A-01	改修工事特記仕様書 1
A-02	改修工事特記仕様書 2
A-03	改修工事特記仕様書 3
A-04	改修工事特記仕様書 4
A-05	改修工事特記仕様書 5
A-06	改修工事特記仕様書 6
A-07	改修工事特記仕様書 7
A-08	改修工事特記仕様書 8
A-09	附近見取図
A-10	敷地求積図
A-11	建物求積図
A-12	仮設計画図
A-13	外部・内部仕上表
A-14	【既存・撤去】平面図
A-15	【既存・撤去】屋根伏図
A-16	【既存・撤去】立面図
A-17	【既存・撤去】断面図
A-18	【改修・増築】平面図
A-19	【改修・増築】屋根伏図
A-20	【改修・増築】立面図

番号	意匠設計図面
A-21	【改修・増築】断面図
A-22	【既存・撤去】平面詳細図・断面詳細図
A-23	【改修・増築】平面詳細図
A-24	【改修・増築】断面詳細図
A-25	【既存・撤去／改修】展開図
A-26	【改修・増築】展開図
A-27	【改修・増築】天井伏図
A-28	【既存・撤去／改修】建具表
A-29	建具詳細図 1
A-30	建具詳細図 2
A-31	建具詳細図 3

番号	構造設計図面
S-01	構造特記仕様書
S-02	配筋標準図 (1)
S-03	配筋標準図 (2)
S-04	鉄骨標準図 (1)
S-05	鉄骨標準図 (2)
S-06	ベ-スハ-ック柱脚工法設計・施工標準図
S-07	土質柱状図
S-08	伏図 (1)
S-09	伏図 (2)
S-10	軸組図 (1)
S-11	軸組図 (2)
S-12	基礎リスト
S-13	RC部材リスト
S-14	鉄骨部材リスト
S-15	鉄骨架構図

番号	電気設備図面
E-01	電気設備特記仕様書 1
E-02	電気設備特記仕様書 2
E-03	凡例・照明器具姿図
E-04	分電盤 結線図
E-05	幹線設備 平面図
E-06	動力設備 平面図
E-07	電灯設備 平面図
E-08	コンセント設備 平面図
E-09	自動火災報知設備 凡例・幹線系統図
E-10	自動火災報知設備 平面図

番号	機械設備図面
M-01	機械設備特記仕様書 1
M-02	機械設備特記仕様書 2
M-03	空調・換気設備・給水設備 平面図

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項													
土・鉄筋・コンクリート工事	⑧ 骨材 (6.3.3)	粗骨材 ※砂利 (JIS A5308), 砕石 (JIS A5005) ○ 電気炉酸化スラグ ○ 再生骨材H 細骨材 ※砂 (JIS A5308), 砕石 (JIS A5005) ○ 電気炉酸化スラグ ○ 鋼スラグ ○ フォトリソグラフィ ○ 再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 ※ A (無害) ○	3 防水改修工事	⑨ 混和材料 (6.3.5)	混和剤 ※ AE剤, AE減水剤又は高性能AE減水剤のI種 (JIS A6204) 混和材 ※ フライアッシュ (JIS A6201) I種又はII種	3 防水改修工事	⑩ 構造体強度補正值 (6.4.5)	※ 気温による構造体強度補正值 (S) (表6.4.1) 予想平均気温 (°C) 補正值 (T) 期間 (打設日) 普通 早強 8以上 5以上 3 3/6 ~ 6/30 3/11 ~ 7/20 3/11 ~ 7/10 0以上 0以上 6 11/16 ~ 3/5 11/6 ~ 3/10 11/1 ~ 3/10 南部地域 (京都市 (一部を除く), 旧八木町, 旧園部町以南の市町村) 北部地域 (宮津市, 旧加悦町以北の市町) 中部地域 (上記以外の市町, 旧美山町及び旧京北町含む)	3 防水改修工事	⑪ 暑中におけるコンクリートの扱い (6.8.2)	※ 暑中における構造体強度補正值 (S) 地域 日平均気温が25度を超える期間 (打設日) 補正值 北部地域 7月11日~8月31日 ※ 6 N/mm ² 中部地域 7月21日~8月31日 ○ 3 N/mm ² 南部地域 7月1日~9月10日	3 防水改修工事	12 寒中コンクリート	※ 予想平均気温が表6.4.1に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第12節 (寒中コンクリート) による。	3 防水改修工事	⑬ コンクリートの試験 (6.10.2) ~ (6.10.6)	※ フレッシュコンクリートの試験 ※ コンクリートの強度試験 ○ 材料試験 レディーミクストコンクリート施工の品質管理 ※ スランプ試験, 圧縮強度試験, 空気量測定については, 少なくとも一回以上, 監督職員立会の上, 実施しなければならない。ただし, やむを得ない場合は監督職員の承諾を受けた上で, 請負者のみで実施してもよい。	3 防水改修工事	⑭ コンクリートミキサー車の過積載防止対策等	請負者は, 出荷伝票等を整理・保管し, 監督職員の請求があった場合は, 遅滞なく提出するとともに, 検査時に提示しなければならない。また, ミキサー車1台毎の積載量が把握できる集計表を検査時に提出しなければならない。	3 防水改修工事	15 軽量コンクリート (6.11.1)	種別 ○ 1種 ○ 2種 施工箇所 _____	3 防水改修工事
	① アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)	○ 保護防水工法 種別 防水層 施工箇所 ○ P1B 工法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P1BI 工法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T1BI 工法 ○ P2AI 工法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P2A 工法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○ 露出防水工法 種別 防水層 施工箇所 ○ M4C 工法 ○ C-1 ※ C-2 表3.3.7 ○ M3D 工法 ○ D-1 ※ D-2 表3.3.8 ○ P0D 工法 ○ 露出防水絶縁断熱工法 種別 防水層 施工箇所 ○ P0DI 工法 ○ DI-1 ※ DI-2 表3.3.9 ○ M3DI 工法 ○ M4DI 工法 ○ 屋内防水工法 種別 防水層 施工箇所 ○ P1E 工法 ○ E-1 ※ E-2 表3.3.10 ○ P2E 工法		2 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4) ○ 露出防水密着工法 種別 防水層 施工箇所 ○ M4AS 工法 ○ AS-1 ○ AS-2 表3.4.1 ○ AS-3 ○ 露出防水絶縁工法 種別 防水層 施工箇所 ○ M3AS 工法 ○ AS-4 ○ AS-5 表3.4.2 ○ P0AS 工法 ○ AS-6 ○ 露出防水絶縁断熱工法 種別 防水層 施工箇所 ○ M3ASI 工法 ○ ASI-1 表3.4.3 ○ M4ASI 工法 ○ ASI-2 ○ P0ASI 工法 断熱材 (露出防水絶縁断熱工法) 厚さ (mm) ○ 材質 ※ 改質アスファルトシート製造所の仕様による ○ 仕上げ塗料 ○ 珪酸塩 () ○ シリケート 脱気装置 ※ 設ける 材種 () 設置数量 (1箇所/ m ²) 防湿層 ※ 設ける 材種 () 設けない 改質アスファルトシート 下地に部分的に溶着又は接着させる場合 ○ 施工法 () 断熱材 (露出防水絶縁断熱工法) 厚さ (mm) ○ 材質 ※ 改質アスファルトシート製造所の仕様による ○ 仕上げ塗料 ○ 珪酸塩 () ○ シリケート 脱気装置 ※ 設ける 材種 () 設置数量 (1箇所/ m ²) 防湿層 ※ 設ける 材種 () 設けない 改質アスファルトシート 下地に部分的に溶着又は接着させる場合 ○ 施工法 () 断熱材 (露出防水絶縁断熱工法) 厚さ (mm) ○ 材質 ※ 改質アスファルトシート製造所の仕様による ○ 仕上げ塗料 ○ 珪酸塩 () ○ シリケート 脱気装置 ※ 設ける 材種 () 設置数量 (1箇所/ m ²) 防湿層 ※ 設ける 材種 () 設けない 改質アスファルトシート 下地に部分的に溶着又は接着させる場合 ○ 施工法 () 断熱材 (露出防水絶縁断熱工法) 厚さ (mm) ○ 材質 ※ 改質アスファルトシート製造所の仕様による ○ 仕上げ塗料 ○ 珪酸塩 () ○ シリケート 脱気装置 ※ 設ける 材種 () 設置数量 (1箇所/ m ²) 防湿層 ※ 設ける 材種 () 設けない 改質アスファルトシート 下地に部分的に溶着又は接着させる場合 ○ 施工法 () 断熱材 (露出防水絶縁断熱工法) 厚さ (mm) ○ 材質 ※ 改質アスファルトシート製造所の仕様による ○ 仕上げ塗料 ○ 珪酸塩 () ○ シリケート 脱気装置 ※ 設ける 材種 () 設置数量 (1箇所/ m ²) 防湿層 ※ 設ける 材種 () 設置数量 (1箇所/ m ²) ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力・積雪荷重に対応した工法を品質計画により定めること。	4 塗膜防水 (3.6.2) ~ (3.6.3) ○ P0X 工法 ※ X-1 表3.6.1 ○ L4X 工法 ※ X-2 脱気装置 ○ 設ける 材種 () 設置数量 (1箇所/ m ²) 保護層 ○ 設ける ○ 設けない 5 漏水試験 ※ 水張り試験を行う (○ 屋内 ○ 屋外) 6 保証書 ※ 請負業者, 防水施工業者, 防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。(保証年数は工事目的物引渡しより10年間以上とする。) 7 施工標識 工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。材質 ※ 真鍮製エッチング仕上 150×100 ○ 設置数量 () 箇所 ⑧ シーリング (3.7.2) ~ (3.7.8) シーリング材の種類 ※ 改修標仕表3.7.11による シーリング改修工法及び施工箇所 改修工法の種別 施工箇所 ※ シーリング充填工法 既存棟屋根廻り ○ シーリング再充填工法 ○ 抵觸シーリング再充填工法 ○ブリッジ工法 目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※ 幅20mm以上, 深さ10mm以上 ○ ガラス回りの目地 ※ 幅5mm以上, 深さ5mm以上 ○ その他の目地 ※ 幅10mm以上, 深さ10mm以上 ○ シーリングの試験 ※ 簡易接着性試験 (部位 _____) ○ 引張接着性試験 (部位 _____) ※ 外とい (外気に接するとい) ルーフトレイン等 ○ 鋳鉄製 軒どい ※ 硬質塩化ビニル製 (角形) (前高) 巾120mm (カラー) 巾150mm たてとい ※ 硬質塩化ビニル管 (VP) (カラー) 径 75mm 谷どい とい受け金物 ※ ステンレス製 ○ 内とい (VP管は使用しない) たてとい及び横走り管 ※ SGP 径 75mm とい受け金物 ※ 亜鉛メッキ鋼板 防露巻き ※ 改修標仕表3.8.3による ※ F☆☆☆☆ ※ 掃除口を設ける (開放性のある自転車置き場のといを除く) ○ 養生鉄管を設ける (径 厚さ 長さ _____) ※ 既存といの撤去及び養生 (_____) ○ 鋼管製といの防露巻 (※表3.8.4 ○ _____) ○ たてとい受け金物 (_____) ※ 性能 ※ 「1章一般共通事項 12風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 ○ 長尺金属板葺 (13.2.2) (13.2.3) 屋根葺方式 材料の種類等 厚さ (mm) ○ 瓦葺 ※ 塗装溶融亜鉛メッキ鋼板 ○ 0.4 ○ アスファルト樹脂フィング 940 ○ 平葺 ※ 塗装溶融55%Zn亜鉛メッキ鋼板 ○ 0.5 ○ 改良アスファルト樹脂フィング 17kg 専門工業者 ※ 製造所の指定業者とする ○ その他 ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力・積雪荷重に対応した工法を品質計画により定める。 ※ 折板葺 (13.3.2) 形式による区分 ○ 重ね形 ※ はせ絡め形 ○ 嵌合形 山高 (mm) 166 mm 耐力 山ピッチ (mm) 500 mm 板厚 (mm) ※ 0.6 ○ 0.8 材料による区分 ※ 塗装溶融亜鉛メッキ鋼板 (13.2.1) 軒先面戸板 ○ 有り (軒先面戸・換気面戸) ※ 無し けらば変形防止材 ○ 鉄鋼製 (○ 上塗り ○ 折板色 ○) ○ ステンレス鋼板 断熱材張り ○ 行う 種類 () 厚さ () 防火性能 () ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力・積雪荷重に対応した工法を品質計画により定める。 ○ 粘土瓦葺 種類, 大きさ, 産地等 ○ J型 53A ○ 役もの ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力・積雪荷重に対応した工法を品質計画により定める。																			
	3 防水改修工事	11 アルミニウム製笠木 (3.9.2) ~ (3.9.3)		種別 板厚 (mm) 表面処理 固定間隔 備考 ○ 250 形 1.6 ○ A-1種 (無着色) ※ 1.3 m程度 隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造の仕様による。 ○ 300 形 1.8 ○ A-2種 (着色) ○ 350 形 2.0 ○ B-1種 (無着色) ○ ○ B-2種 (着色) ○ 曲げ材 ※ 2.0 ○	3 防水改修工事		⑮ 外壁改修工事	1 施工数量調査 (1.5.2) ※ 行う (○ ひび割れ ○ 欠損 ○ 浮き ○ _____) ※ 施工に先立ち, 建築士診断技術者 (BELCA) による外壁劣化状況調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。 ○ 行わない 2 ひび割れ部改修 (4.1.4) ~ (4.2.2) ~ (4.3.6) コンクリート打ち放し仕上げ 工法 材料 施工箇所 ※ 樹脂注入工法 ※ 硬質形エポキシ樹脂 ○ 軟質形エポキシ樹脂 ○ Uカットシール材充填工法 ※ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材 (PU-2) ○ ポリマーセメントモルタル ○ シール工法 ※ パテ状エポキシ樹脂 ○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ モルタル塗り仕上げ 工法 材料 施工箇所 ※ 樹脂注入工法 ※ 硬質形エポキシ樹脂 ○ 軟質形エポキシ樹脂 ○ Uカットシール材充填工法 ※ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材 (PU-2) ○ ポリマーセメントモルタル ○ シール工法 ※ パテ状エポキシ樹脂 ○ 可とう性エポキシ樹脂 3 欠損部改修 (4.3.7) ~ (4.4.8) ~ (4.4.9) コンクリート打ち放し仕上げ 工法 材料 施工箇所 ○ 充填工法 ※ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル ○ モルタル塗り仕上げ 工法 材料 施工箇所 ○ 充填工法 ※ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル ○ モルタル塗替え工法 ※ 改修標仕4.4.11による ○ タイル張り仕上げ 工法 材料 施工箇所 ○ タイル部分張替え工法 ○ ポリマーセメントモルタル ○ 裏面シリコン樹脂 ○ ウレタン樹脂 ○ タイル張替え工法		3 防水改修工事														
		訂正		月日			工事名	建築改修工事特記仕様書-2			縮尺 NS		図面No.	設計No.		園建築事務所								
							道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事				年月日		A-02			竹内 秀雄 一級建築士 第137409号								

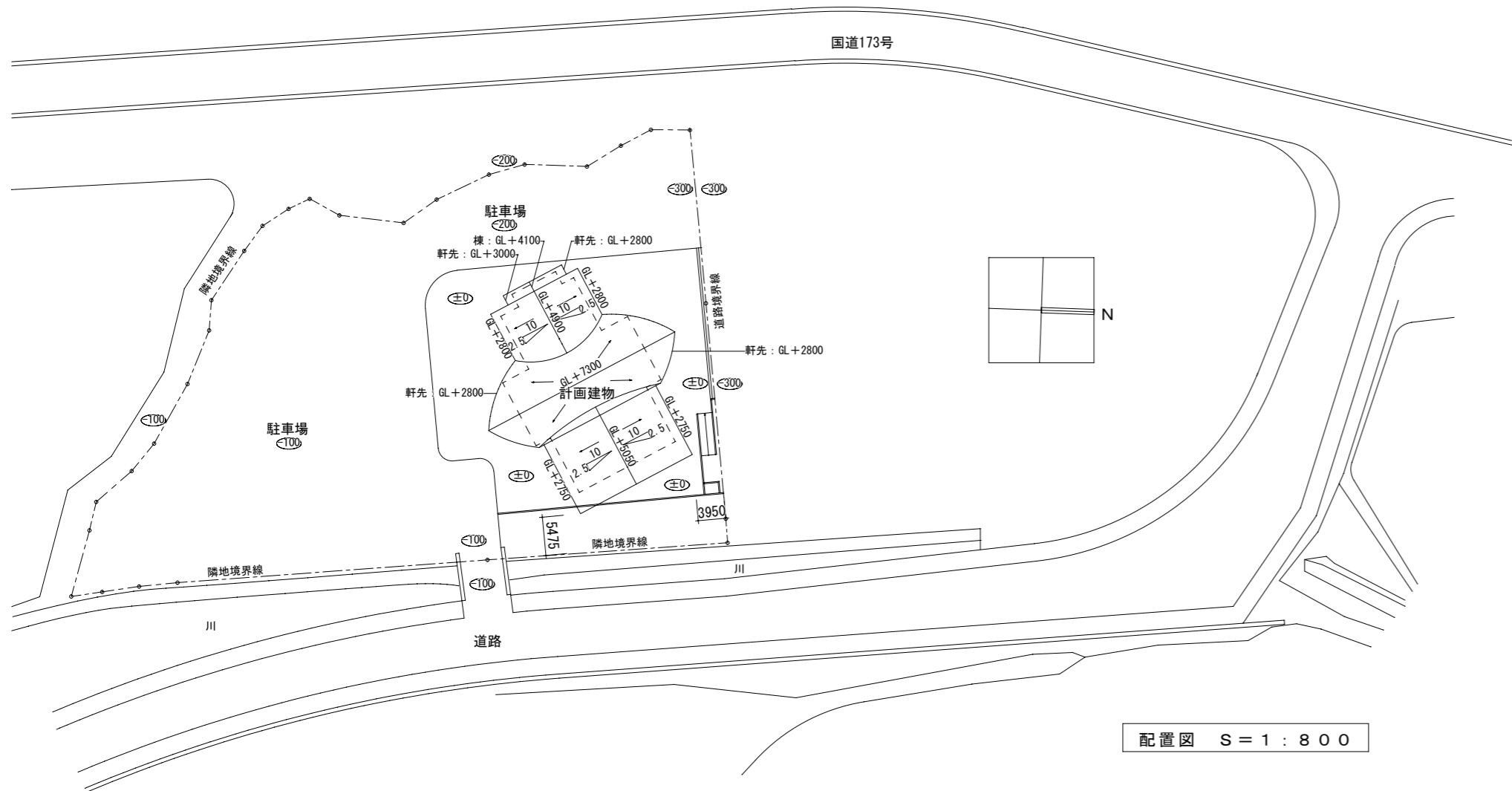
章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項																
4	外壁改修工事	4 浮き部改修工法 (4.4.10) ~ (4.4.15)	○モルタル塗り仕上げ					4	外壁改修工事	8 アンカーピン注入工法(4.2.2)	アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼(SUS304)、呼び径4mm、全ネジ切り丸棒 ○					4	外壁改修工事	14 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.6.3) (4.6.4)	防火材料の指定 ※なし ○ 下地補修後の打放しコンクリート壁面の仕上げ補修 ※行う ○行わない (参考工法: _____ 製造所: _____)					5	建具改修工事	9 鋼製建具 (5.3.2) ~ (5.3.4)	外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ○S-5 ○S-6 (表5.2.1) 簡易気密扉の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない (表5.3.1) ○防音ドアセット、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ○H-2 ○H-3) ○耐震ドアセットの適用 (面内変形追従性の等級 ○D-1 ○D-2) JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は標仕による) ※製造所標準製作規定寸法許容差による 鋼板 めっきの付着量 (JIS G 3302) ※Z12又はF12を満足させる ○ 厚さ (mm) ※表5.3.2 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ _____ mm									
			5 目地改修工法 (4.4.9) ~ (4.5.9) ~ (4.5.15)	○モルタル塗替え工法								12 窓下人研面台の補修 (4.1.4) (4.2.2) (4.6.5)	13 仕上塗材 (4.1.4) (4.2.2) (4.6.5)	9 注入口付アンカーピン注入工法(4.2.2)	注入口付アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼(SUS304)、呼び径外径6mm ○ 既製目地材 ○使用する (形状 _____) 仕上げ厚又は全塗装厚が25mmを超える場合の処置 ※図示 ○ _____					15 部分改修工法 (4.6.6)	11 ステンレス製建具 (5.5.2) ~ (5.5.4)	鋼製軽量建具 (5.4.2) ~ (5.4.4)														
				○モルタル塗り仕上げ											12 窓下人研面台の補修 (4.1.4) (4.2.2) (4.6.5)				13 仕上塗材 (4.1.4) (4.2.2) (4.6.5)			10 モルタル塗替え工法(4.4.9)	施工箇所及びタイルの種別 形状寸法(mm) 生地 釉薬 役物 色 耐凍害性 工法 その他 ○磁器 ○無釉 ○有り ※標準 ○有り ○磁器 ○無釉 ○無し ○特注 ○無し ○セラミック ○陶器					11 ステンレス製建具 (5.5.2) ~ (5.5.4)	表面仕上げ (5.4.2) ~ (5.4.4)							
				○モルタル塗り仕上げ																			12 窓下人研面台の補修 (4.1.4) (4.2.2) (4.6.5)				13 仕上塗材 (4.1.4) (4.2.2) (4.6.5)		10 モルタル塗替え工法(4.4.9)	タイルの試験張り ※行わない ○行う タイルの見本焼き ※行わない ○行う 窓回りの固定 ※する ○しない 施工後の確認及び試験 浮きの確認 ※全面打診による確認を行う 接着力の試験 ※接着力試験機による接着力試験 を行う ○行わない タイル張替用材料 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ○ タイル張替工法の伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地位置 ※改修仕様表4.5.11による ○図示 ○シール工法 (※仕上塗材は外壁仕上塗材の上塗り材とする。) ※塗膜防水 (※弾性ウレタン系 ○エポキシ系)					11 ステンレス製建具 (5.5.2) ~ (5.5.4)	表面仕上げ (5.4.2) ~ (5.4.4)
		○モルタル塗り仕上げ					12 窓下人研面台の補修 (4.1.4) (4.2.2) (4.6.5)		13 仕上塗材 (4.1.4) (4.2.2) (4.6.5)	10 モルタル塗替え工法(4.4.9)	○薄付け仕上塗材 (JIS A 6909) 種 類(呼び名) 仕 上 げ 工 法 備 考 ○外装薄塗材Si ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ○可とう型外装薄塗材S ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ○外装薄塗材E ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ○着色骨材砂壁状 ○こて 吹付け ○可とう型外装薄塗材E ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ○防水形外装薄塗材E (増塗材) ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ○外装薄塗材S 砂壁状 吹付け ○厚付け仕上塗材 (JIS A 6909) 種 類(呼び名) 仕 上 げ 工 法 備 考 ○外装厚塗材C ○吹放し ○凸部処理 吹付け ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ○ひき起し ○かき落とし ○外装厚塗材Si ○吹放し ○凸部処理 吹付け ○外装厚塗材E ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ○ひき起し ローラー ○複層仕上塗材 (JIS A 6909) 種 類(呼び名) 仕 上 げ 工 法 備 考 ○複層塗材CE ○凸部処理 吹付け ○複層塗材Si ○凹凸模様 吹付け ○複層塗材E ○ゆず肌状 ローラー ○複層塗材RE ○ゆず肌状 ローラー ○可とう型複層塗材CE ○凸部処理 ○凹凸模様 吹付け ○ゆず肌状 ローラー ○複層塗材RS ○凸部処理 ○凹凸模様 吹付け ○ゆず肌状 ローラー ○防水形複層塗材CE ○凸部処理 吹付け ○防水形複層塗材E (増塗材) ○凹凸模様 吹付け ○防水形複層塗材RS ○ゆず肌状 ローラー ○防水形複層塗材RE ○ゆず肌状 ローラー 複層仕上塗材の耐候性 ※3種 ○ 複層仕上塗材の上塗材 溶媒 ※水系 ○弱溶剤系 ○溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ○ 外觀 ※つや有 ○つやなし ○メタリック 防水形複層仕上塗材の増塗 ※行わない ○行う							11 ステンレス製建具 (5.5.2) ~ (5.5.4)	開口部の進入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所 ・ドア 適用箇所 (_____) ・サッシ 適用箇所 (_____) ・シャッター 適用箇所 (_____)							11 ステンレス製建具 (5.5.2) ~ (5.5.4)		開口部の進入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所 ・ドア 適用箇所 (_____) ・サッシ 適用箇所 (_____) ・シャッター 適用箇所 (_____)								
		○モルタル塗り仕上げ									12 窓下人研面台の補修 (4.1.4) (4.2.2) (4.6.5)	13 仕上塗材 (4.1.4) (4.2.2) (4.6.5)	10 モルタル塗替え工法(4.4.9)	○薄付け仕上塗材 (JIS A 6909) 種 類(呼び名) 仕 上 げ 工 法 備 考 ○外装薄塗材Si ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ○可とう型外装薄塗材S ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ○外装薄塗材E ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ○着色骨材砂壁状 ○こて 吹付け ○可とう型外装薄塗材E ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ○防水形外装薄塗材E (増塗材) ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ○外装薄塗材S 砂壁状 吹付け ○厚付け仕上塗材 (JIS A 6909) 種 類(呼び名) 仕 上 げ 工 法 備 考 ○外装厚塗材C ○吹放し ○凸部処理 吹付け ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ○ひき起し ○かき落とし ○外装厚塗材Si ○吹放し ○凸部処理 吹付け ○外装厚塗材E ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ○ひき起し ローラー ○複層仕上塗材 (JIS A 6909) 種 類(呼び名) 仕 上 げ 工 法 備 考 ○複層塗材CE ○凸部処理 吹付け ○複層塗材Si ○凹凸模様 吹付け ○複層塗材E ○ゆず肌状 ローラー ○複層塗材RE ○ゆず肌状 ローラー ○可とう型複層塗材CE ○凸部処理 ○凹凸模様 吹付け ○ゆず肌状 ローラー ○複層塗材RS ○凸部処理 ○凹凸模様 吹付け ○ゆず肌状 ローラー ○防水形複層塗材CE ○凸部処理 吹付け ○防水形複層塗材E (増塗材) ○凹凸模様 吹付け ○防水形複層塗材RS ○ゆず肌状 ローラー ○防水形複層塗材RE ○ゆず肌状 ローラー 複層仕上塗材の耐候性 ※3種 ○ 複層仕上塗材の上塗材 溶媒 ※水系 ○弱溶剤系 ○溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ○ 外觀 ※つや有 ○つやなし ○メタリック 防水形複層仕上塗材の増塗 ※行わない ○行う					11 ステンレス製建具 (5.5.2) ~ (5.5.4)	開口部の進入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所 ・ドア 適用箇所 (_____) ・サッシ 適用箇所 (_____) ・シャッター 適用箇所 (_____)							11 ステンレス製建具 (5.5.2) ~ (5.5.4)	開口部の進入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所 ・ドア 適用箇所 (_____) ・サッシ 適用箇所 (_____) ・シャッター 適用箇所 (_____)								

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項																						
8-2	7 コンクリートの試験 (8.8.2) ~ (8.8.6)	※フレッシュコンクリートの試験 ※コンクリートの強度試験 ○材料試験 レディーミクストコンクリート施工の品質管理 ※スランプ試験、圧縮強度試験、空気量測定については、少なくとも一回以上、監督職員立会の上、実施しなければならない。ただし、やむを得ない場合は監督職員の承諾を受けた上で、請負者のみで実施してもよい。	8-4	5 溶融亜鉛メッキ高力ボルト (8.2.8)	セットの種類 ○1種 (F8T) 摩擦面の処理 ○ プラスト処理 (表面粗度 5.0 μm Rz以上) ○ リン酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ※ すべり耐力試験 試験方法等 ○ 図示による ○ _____	8-7	14 錆止め塗料 (7.3.2) (8.16.3)	塗料の種類 ○ 鉄鋼面の錆止め塗料 屋外 ○ 改修標仕7.3.2表7.3.1 ※ A種 ○ () 屋内 ○ 改修標仕7.3.2表7.3.1 ※ A種 ○ B種 ○ () ○ 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料 ○ 改修標仕7.3.2表7.3.1 ※ A種 ○ B種 ○ C種 ○ () 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スクリューの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る) ○ 改修標仕7.3.2表7.3.1 ※ A種 ○ B種 ○ () 耐火被覆材の接着する面への塗装 ○ 行わない ○ 行う	8-17	1 補強工法	○ 内側補強工法 ○ 枠付き鉄骨K型ブレース ○ 枠付き鉄骨X型ブレース ○ 枠付き鉄骨類付ブレース ○ 枠付き鉄骨マンサード型ブレース ○ 枠付き開口鉄板パネル ○ 枠付き無開口鉄板パネル 製造所及び専門業者 (_____) ○ 外側補強工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース直付け工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース架橋増設工法 製造所及び専門業者 (_____)																						
	8 高い強度のコンクリート (8.9.3) (8.9.8)	混和材料 混和剤 ※ AE減水剤標準形若しくは遅延形又は高性能AE減水剤標準形若しくは遅延形 (JIS A 6204) ○ _____ 型枠の存置期間 ○ _____		6 鉄骨の工作図 (8.1.6)	原寸図 ○ 作成する ○ 作成しない 高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※ 図示による (図に無い場合は鉄骨設計基準による)		1 グラウト材 (8.2.10)	グラウト材 ※ 早強型特殊セメント系無収縮モルタル ○ _____ 無収縮モルタルの調査 ※ 製造所で調査されたプレミックスタイプ ○ 現場調査 無収縮グラウト材の品質 圧縮強度 (N/mm ²) ※ 30以上 ○ _____ ※ 一般部コンクリートと同等級以上の強度 (鉄筋コンクリート壁増設工事の壁頭部) コンクリート強度 (N/mm ²) ※ 6~10 ○ _____ 乾燥収縮 (10 ⁻⁴) ※ 0 ○ _____ ※ グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験 ※ 行う ○ 行わない コンシステンシー試験 ※ 行う ○ 行わない		2 既存部分の撤去 (8.20.2)	既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。																						
	9 軽量コンクリート (8.10.1)	常時土あるいは水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可 種別 ○ 1種 ○ 2種 施工箇所 _____ 所要気乾単位容積質量 (_____ kg/m ³)		7 仮組 (8.12.9)	○ 実施する 部位 (_____) ○ 実施しない		2 柱底等の均しモルタル(8.2.10)	無収縮モルタル材 ○ 使用する ○ 使用しない		3 既存部分の処理 (8.20.3)	目荒しの程度 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-3による。	4 既存構造体との取合い (8.20.7)	割裂補強筋 ※ 以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40~60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3~1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示																				
8-3	1 あと施工アンカー (8.2.4) (8.11.2)	○ 金属系アンカー 引張耐力 (_____) セン断耐力 (_____) 径 (_____) 埋込み深さ (_____) セット方式 ※ 本体打込み式 ○ _____ 接合筋 種類 (_____) 長さ (_____) 径 (_____) ○ 接着系アンカー 引張耐力 (_____) セン断耐力 (_____) 種類 ※ カプセル型 ○ _____ アンカー筋 ※ 改修標仕表8.2.10の異形棒鋼 径 (_____) 埋込み深さ (_____) 新設壁内への定着長さ (_____) 埋め込み配管等の調査 範囲 ※ あと施工アンカー施工部分全て ○ 図示 方法 ※ 鉄筋探知機(金属探知機)により調査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 ○ 図示	9 溶接接合 (8.14.7) (8.14.11)	開先の形状 ○ 図示による ○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○ _____ スカラップの形状 ○ 図示による ○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○ 改良型スカラップ エンドタブの切除する部分 ※ 見え掛り部となる部分 ○ 見え隠れ部となる部分 ○ 切除する部分なし	8-5	1 補強工法 (8.19.2)	1 補強工法	○ 新設耐震壁 ○ 増打ち耐震壁 ○ 開口部閉鎖壁 ○ 新設袖壁 製造所及び専門業者 (_____)	2 既存部分の撤去 (8.21.2)	既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示 ○ 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を露出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ※ 図示 ○ _____ 既存構造体の撤去範囲 ※ 図示 ○ _____ はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 ○ 図示																							
	2 あと施工アンカーの試験 (8.2.4) (8.11.5)	性能確認試験 ※ 行わない ○ 行う 施工確認試験 ※ 行う (引張試験機による引張試験 確認強度 (_____)) ○ 行わない	10 溶接部の試験 (8.14.11)	○ 浸透探傷試験 (JIS Z 2343-1) ○ 磁粉探傷試験 (JIS Z 2320-1) ※ 超音波探傷試験 工場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 4.0% ○ 2.5% 検査水準 ※ 第6水準 ○ 第 水準 現場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 4.0% ○ 2.5%				2 既存部分の処理 (8.19.3)		目荒しの程度 既存柱・梁 ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示 壁(増打ち壁増設の場合) ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の10~15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示	3 既存部分の処理 (8.21.3)	目荒し程度(連続繊維補強工法以外) ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示 柱の成型(連続繊維補強工法) ※ 支障となる表面の不陸を調整し、コーナー部をグラインダー等により曲面に成型する。(※30R ○ _____) ○ 図示																					
	1 鉄骨の製作工場 (8.1.5)	○ 監督職員の承諾する工場 ※ 建築基準法第77条の5第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(O S O H O M O R O J) グレード」として、国土交通大臣から認定を受けた工場もしくは同等以上の能力のある工場	11 耐火被覆 (8.17.2) ~ (8.17.8)	種別 <table border="1"><thead><tr><th>種別</th><th>材料・工法</th><th>適用箇所(部位・部分)</th></tr></thead><tbody><tr><td>○ 耐火材吹付け</td><td>○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○ _____</td><td></td></tr><tr><td>○ 耐火板張り</td><td>○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○ _____</td><td></td></tr><tr><td>○ 耐火材巻付け</td><td>○ 高断熱ロックウール ○ _____</td><td></td></tr><tr><td>○ 珪藻土珪藻土塗り</td><td>-</td><td></td></tr></tbody></table> 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする 性能 <table border="1"><thead><tr><th>性能</th><th>適用箇所(部位・部分)</th></tr></thead><tbody><tr><td>○ 30分耐火</td><td></td></tr><tr><td>○ 1時間耐火</td><td></td></tr><tr><td>○ 2時間耐火</td><td></td></tr><tr><td>○ 3時間耐火</td><td></td></tr></tbody></table>				種別		材料・工法	適用箇所(部位・部分)	○ 耐火材吹付け	○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○ _____		○ 耐火板張り	○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○ _____		○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール ○ _____		○ 珪藻土珪藻土塗り	-		性能	適用箇所(部位・部分)	○ 30分耐火		○ 1時間耐火		○ 2時間耐火		○ 3時間耐火	
種別	材料・工法	適用箇所(部位・部分)																															
○ 耐火材吹付け	○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○ _____																																
○ 耐火板張り	○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○ _____																																
○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール ○ _____																																
○ 珪藻土珪藻土塗り	-																																
性能	適用箇所(部位・部分)																																
○ 30分耐火																																	
○ 1時間耐火																																	
○ 2時間耐火																																	
○ 3時間耐火																																	
2 施工管理技術者 (8.1.5)	※ 適用する ○ 適用しない	12 アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3)	※ 公共建築工事標準仕様書(H22版)による。	3 既存部分の処理 (8.19.3)	目荒しの程度 既存柱・梁 ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示 壁(増打ち壁増設の場合) ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の10~15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示	3 既存部分の処理 (8.21.3)	目荒し程度(連続繊維補強工法以外) ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示 柱の成型(連続繊維補強工法) ※ 支障となる表面の不陸を調整し、コーナー部をグラインダー等により曲面に成型する。(※30R ○ _____) ○ 図示																										
3 鋼材の種類 (8.2.7)	<table border="1"><thead><tr><th>種類の記号</th><th>使用箇所</th><th>規格等</th></tr></thead><tbody><tr><td>SS400</td><td></td><td>JIS G 3101</td></tr><tr><td>SN400A</td><td></td><td>JIS G 3106</td></tr><tr><td>SM400A</td><td></td><td>JIS G 3136</td></tr></tbody></table>	種類の記号	使用箇所	規格等	SS400		JIS G 3101	SN400A		JIS G 3106	SM400A		JIS G 3136	13 柱底均しモルタル (7.2.9)	モルタルの種類 ※ 無収縮モルタル ○ (_____)	4 鉄筋の加工及び組立て (8.19.6)	割裂補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 スクリュー筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示 開口付増設壁の開口部端部鉄筋及び増設壁の端部補筋 ※ ダブル配筋=閉鎖型配筋、シングル配筋=フック(3d)付き ○ 図示	4 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法(8.21.5)	柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 打ち込むコンクリート又はグラウト材の厚さ ○ _____ mm 打ち込みの工法 ○ 流込み工法 ○ 圧入工法														
種類の記号	使用箇所	規格等																															
SS400		JIS G 3101																															
SN400A		JIS G 3106																															
SM400A		JIS G 3136																															
4 高力ボルト (8.2.8) (8.13.2) (8.13.7)	ボルトの種類 ※ トルシア形高力ボルト(建築基準法の認定品) セットの種類 ○ 2種(S10T) ○ JIS形高力ボルト (JIS B 1186) セットの種類 ○ 2種(S10T) ボルト径 ○ _____ すべり係数試験 ※ 行わない ○ 行う 試験方法等 ○ 図示による 本締め JIS型高力ボルトのナット回転法 ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量 ○ _____	12 アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3)	※ 公共建築工事標準仕様書(H22版)による。	5 コンクリートの打込み工法(8.19.8)	※ 流込み工法 ○ 圧入工法	5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.21.6)	鋼板の加工 ○ 円形 ○ 角形 ○ _____ 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合のモルタル剥落防止処理方法 ○ 小口塞ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板曲げ加工 グラウト材 グラウト材の仕様 ※ 本特記仕様書8-5-1による ○ _____ グラウト材の厚さ ○ 20mm ○ _____ mm																										

計画敷地：京都府船井郡京丹波町大朴地内

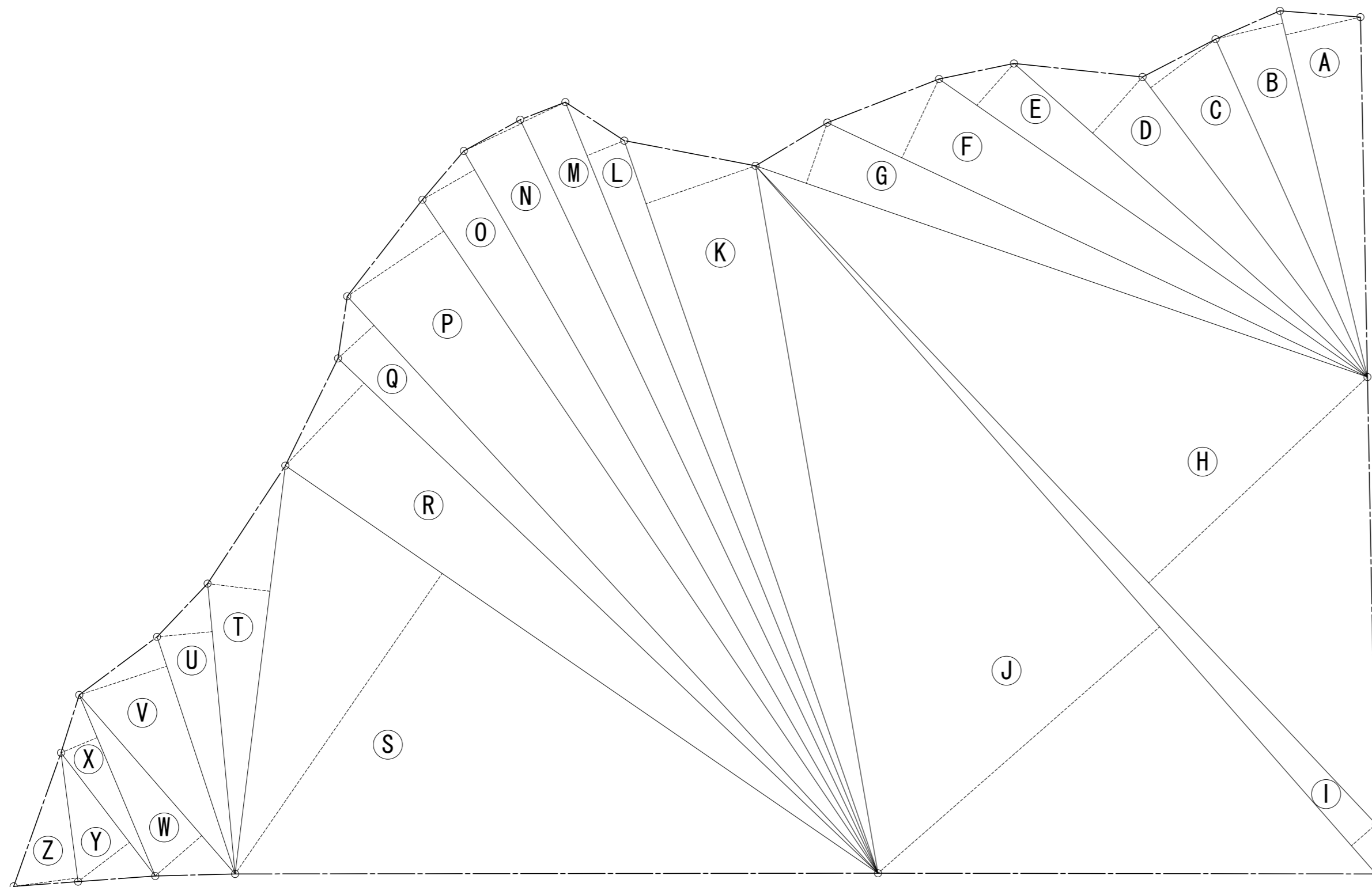


附近見取り図 S = 1 : 2 5 0 0 0



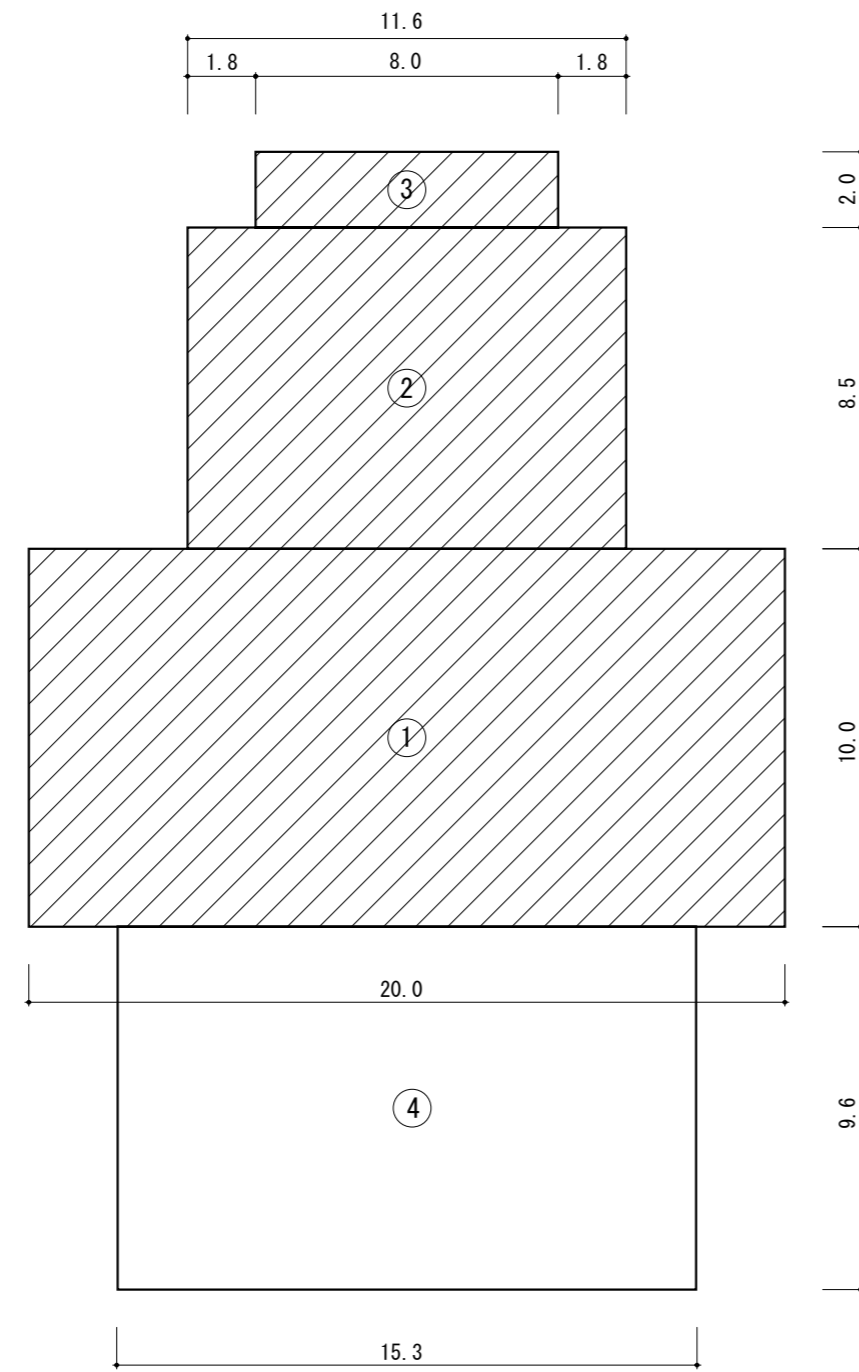
配置図 S = 1 : 8 0 0

訂正	月日		工事名 道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事	附近見取り図	縮尺 1/800	図面No. A-09	設計No.					園建築事務所 竹内 秀雄 一級建築士 第137409号
					年月日							



■敷地面積算定式

	底辺	×	高さ	=	
Ⓐ	25.94	×	5.29	=	137.22
Ⓑ	25.94	×	4.76	=	123.47
Ⓒ	25.83	×	5.59	=	144.38
Ⓓ	32.54	×	5.18	=	168.55
Ⓔ	35.94	×	3.83	=	137.66
Ⓕ	41.11	×	6.00	=	246.66
Ⓖ	44.57	×	4.42	=	196.99
Ⓗ	62.32	×	0.69	=	1289.40
Ⓘ	64.86	×	2.26	=	146.58
Ⓙ	64.86	×	25.77	=	1671.44
Ⓚ	53.42	×	7.98	=	426.29
Ⓛ	57.33	×	2.76	=	158.23
Ⓜ	57.47	×	3.33	=	191.37
Ⓝ	57.47	×	4.43	=	254.59
Ⓞ	57.36	×	4.14	=	237.47
Ⓟ	56.02	×	8.02	=	449.28
Ⓠ	54.00	×	3.36	=	181.44
Ⓡ	51.39	×	7.85	=	403.41
Ⓢ	49.54	×	25.14	=	1245.43
Ⓣ	28.35	×	4.32	=	122.47
Ⓤ	20.10	×	3.81	=	76.58
Ⓡ	17.20	×	6.34	=	109.04
Ⓢ	16.35	×	4.24	=	69.32
Ⓣ	13.53	×	2.70	=	36.53
Ⓤ	10.69	×	4.46	=	47.67
Ⓡ	8.96	×	4.44	=	39.78
	倍面積				8311.24
	敷地面積				4155.62 (㎡)

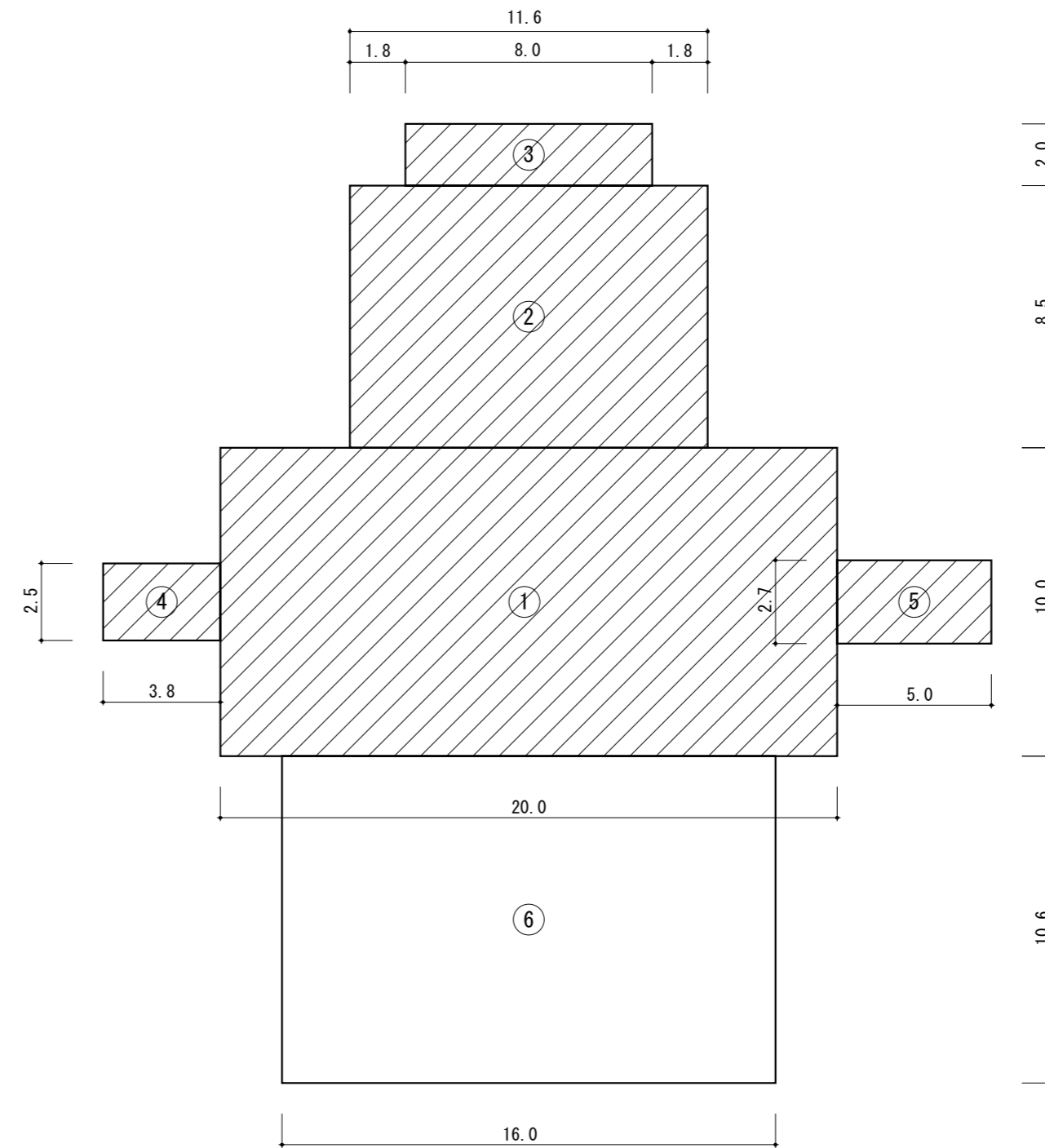


■延床面積

①	$20.0 \times 10.0 = 200.0$
②	$11.6 \times 8.5 = 98.6$
③	$8.0 \times 2.0 = 16.0$
④	$15.3 \times 9.6 = 146.88$
総合計	461.48 (㎡)

■容積率

$461.48 / 4155.62 \times 100 = 11.1049$
$= 11.11 \%$

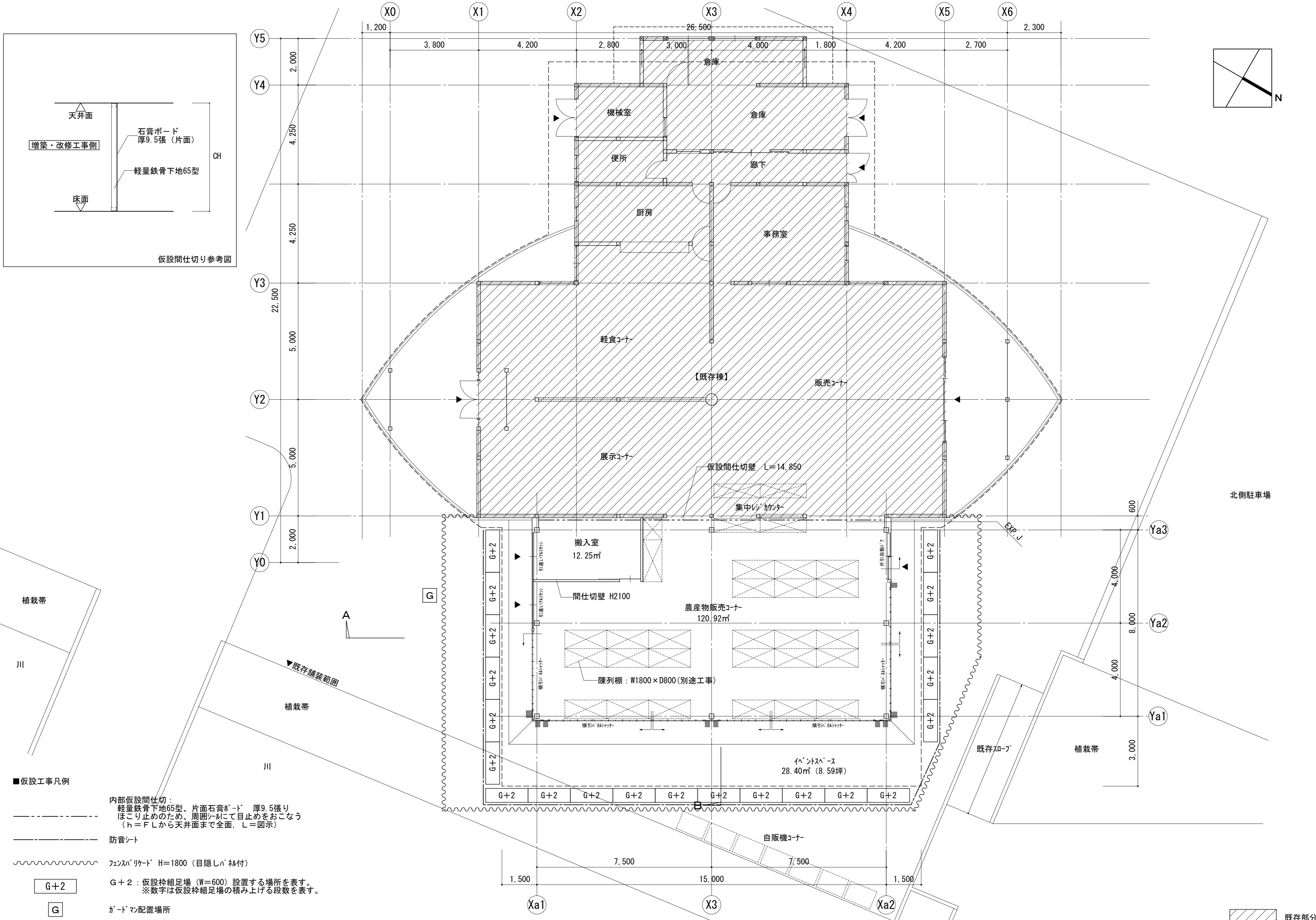
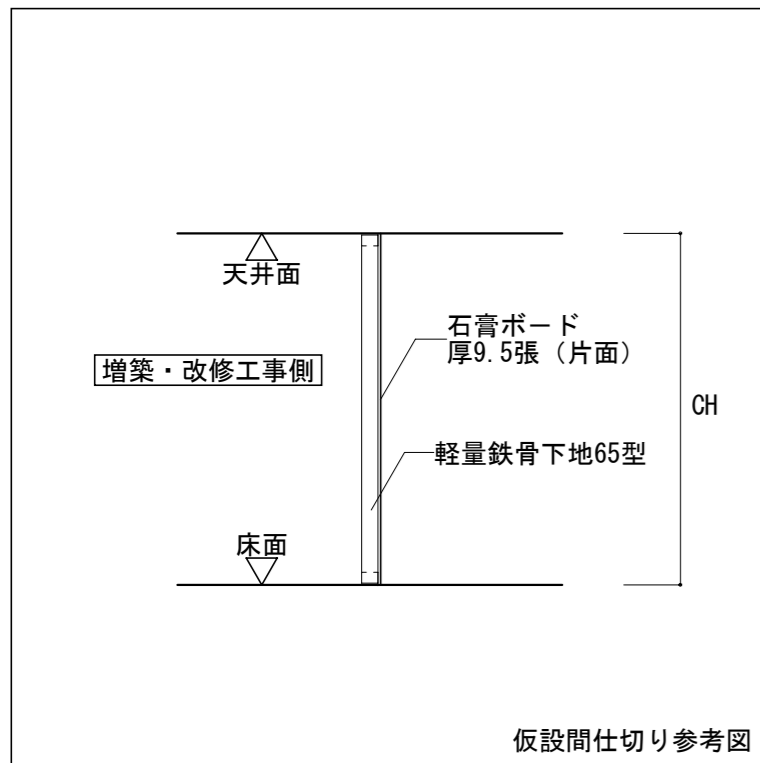


■建築面積

①	$20.0 \times 10.0 = 200.0$
②	$11.6 \times 8.5 = 98.6$
③	$8.0 \times 2.0 = 16.0$
④	$2.5 \times 3.8 = 9.5$
⑤	$2.7 \times 5.0 = 13.5$
⑥	$16.0 \times 10.6 = 169.6$
総合計	507.2 (㎡)

■建蔽率

$507.2 / 4155.62 \times 100 = 12.2051$
$= 12.21 \%$



- 仮設工事凡例
- 内部仮設間仕切り: 軽量鉄骨下地65型、片面石膏ボード 厚9.5張り ぼこり止めのため、周囲シロにて目止めをおこなう (h=F Lから天井面まで全面、L=図示)
 - 防音シート
 - フェンスバリアード H=1800 (目隠しバ 補付)
 - G+2: 仮設柱組足場 (W=600) 設置する場所を表す。 ※数字は仮設柱組足場の積み上げる段数を表す。
 - G: ガードマン配置場所

既存部分

訂正	月日	工事名	仮設計画図	縮尺 1/100	図面No. A-12	設計No.	園建築事務所 竹内 秀雄 一級建築士 第137409号
		道の駅「瑞穂の里さびき」改修工事		年月日			

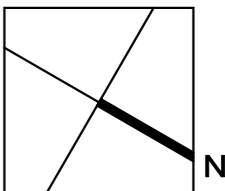
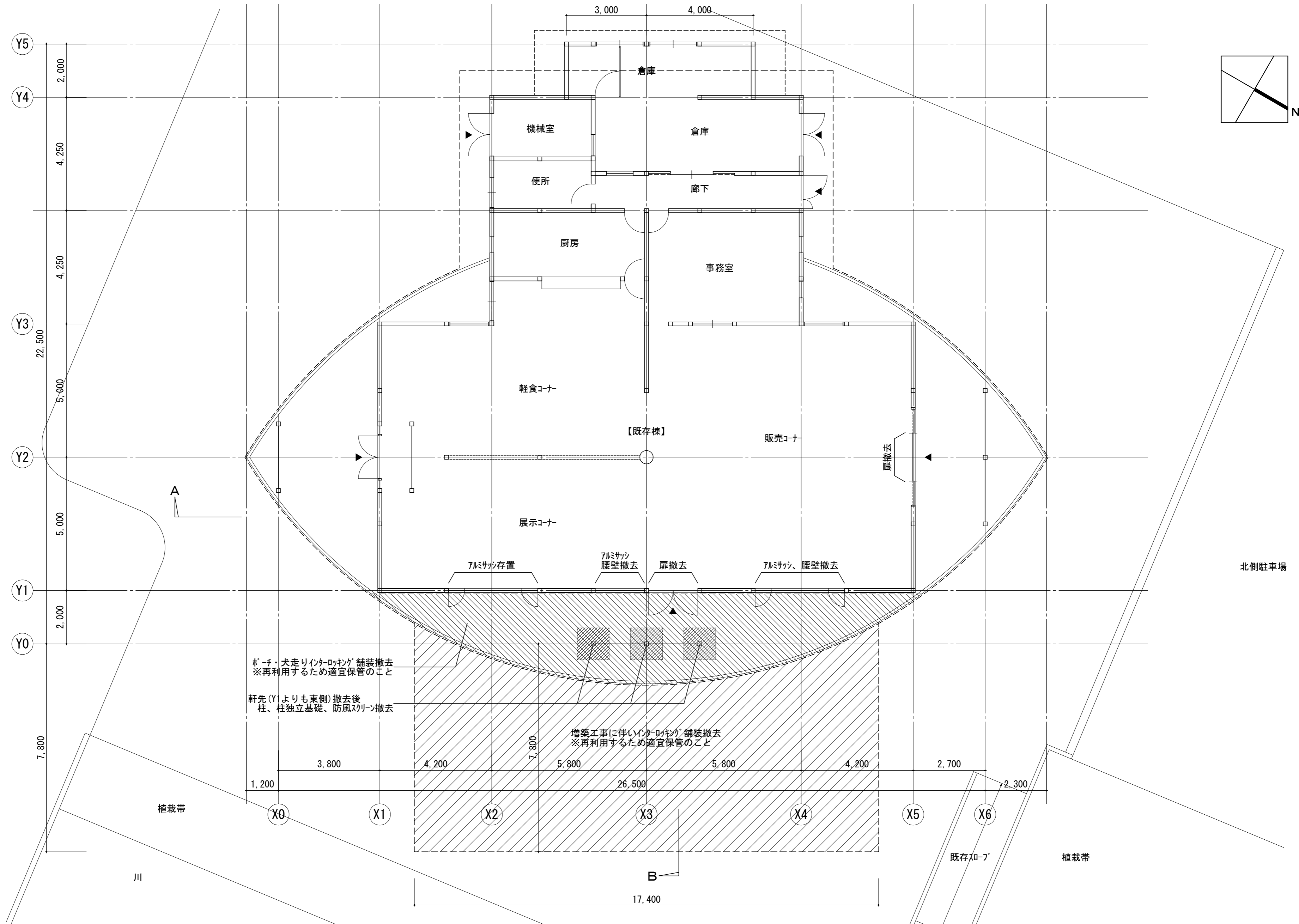
■外部仕上表

既 存 部	屋根 1	木軸組、耐水合板 t=15、水性プライマー、ガムロンMGベ-スK、表面7mm箔圧着不燃シグルー文字葺き(ガムロン工法)
	軒天井(屋根 1)	木下地、珪酸カルシウム版 t=6 底目地張り、EP塗装仕上
	外壁 1	木ずり13×100、ラスシート下地こすり、珪酸の上、吹付塗装かき落とし仕上
	腰壁(巾木)	コンクリート打ち放しの上、珪酸刷毛引き
	柱型、梁型	化粧柱 松集成材 150角、管柱 杉 105角、梁 松集成材
	外部床(犬走り)	砕石地業100mm、サントクッション30mmの上、インターロッキング t=60舗装
	開口部	窓 : アルミサッシ_アルマイト処理 出入口 : 松框扉 キンテール塗装(3回) ガリ : スチール_焼付塗装仕上
	軒樋、縦樋	軒樋: 内樋_ガムロンMG下地、ガムロンケキップ 縦樋: 硬質塩ビ管 100φ VP塗装仕上
外部金物・その他		

増 築 部	屋根 2	木軸組、耐水合板 t=15、水性プライマー、ゴムアスファルト防水シート(自着工法)、アスファルトシングル葺き
	屋根 3	鉄骨組、カラーガルバリウム鋼板製折板屋根 t=0.6 (30°ル-166/30°コ同等品) ※雪止金物付
	軒天井(屋根 2)	木下地、珪酸カルシウム版 t=6 底目地張り、EP塗装仕上
	軒天井(屋根 3)	屋根仕上材裏地表し(カラーガルバリウム鋼板製折板屋根 t=0.6 30°ル-166/30°コ同等品)
	外壁 2	St C-100×50 @600下地、カラーガルバリウム製角波スパンドレル張り
	腰壁(巾木)	—————
	柱型、梁型	梁型 鉄骨組、防錆塗装の上、SOP塗装仕上
	外部床(犬走り)	砕石地業 t=100、サントクッション t=30下地、インターロッキング t=60 舗装 ※既存品再利用
開口部	掃出窓 : アルミサッシ_電解着色処理(シルバー) ※仕様: パリアフリーサッシ フラットステージ 引違い戸 ALC枠 / フジサッシ同等品 自動ドア : スチール製 SOP仕上 横引きパネルシャッター : アルミ製_電解着色処理(シルバー) ※仕様: パネル5S4-N / 文化シャッター同等品 自動ドア(既存障子取替) : スチール製 SOP仕上	
軒樋、縦樋	軒樋: 硬質塩ビ製 VP塗装仕上 縦樋: 硬質塩ビ管 100φ VP塗装仕上	
外部金物・その他	エキスパンションジョイントカバー : 壁面_アルミ製 AX23AE/カバー同等品、屋根面_アルミ製 AX12/カバー同等品	

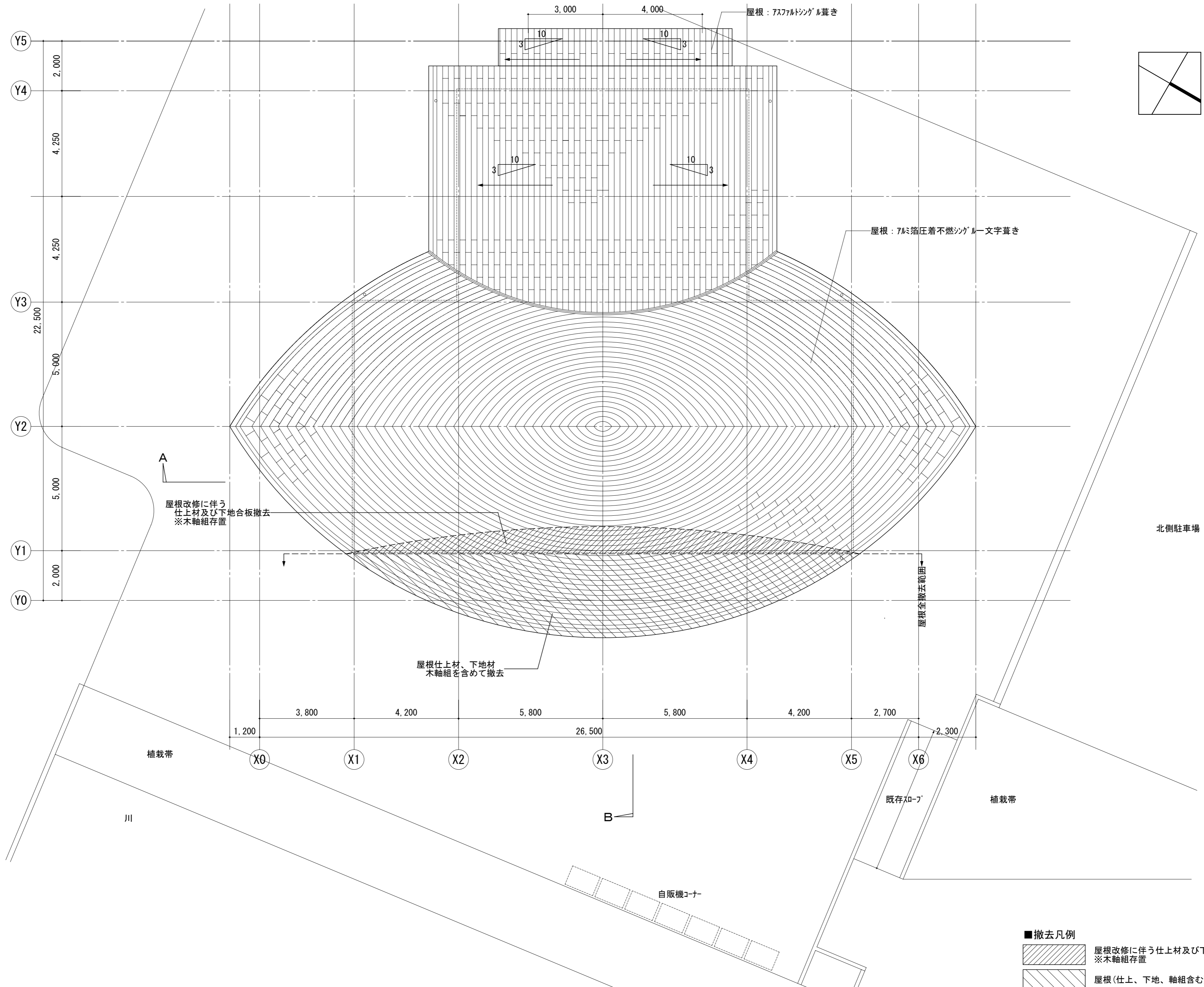
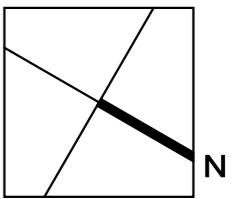
■内部仕上表

階	室名	天井高	床		巾木	壁(W)/柱型(C)		天井(CE)/梁型(GB)	廻り縁	備考 / 造作・造付家具等
			下地	仕上		仕上高さ	下地			
増築部	農産物販売コーナー搬入室(北面、東面、南面)	2800~4720	砕石地業 t=100 サントクッション t=30	インターロッキング t=60舗装 ※既存品再利用	—————	St C-100×50 @600	(W): 外壁仕上材裏地表し (カラーガルバリウム製角波スパンドレル張り) (C): 鉄骨部材表し SOP	(CE): 屋根仕上材裏地表し (カラーガルバリウム鋼板製折板屋根 30°ル-166/30°コ同等品) (GB): 鉄骨部材表し SOP	—————	集中レジカウンター(別途工事) 陳列棚(別途工事)
	農産物販売コーナー搬入室	2800~4720	砕石地業 t=100 サントクッション t=30	インターロッキング t=60舗装 ※既存品再利用	—————	木製胴縁 LGS-65	(W西面): PB t=12.5の上、EP塗装仕上 (W間仕切壁H2100): PB t=12.5の上、EP塗装仕上 (C): 鉄骨部材表し SOP	(CE): 屋根仕上材裏地表し (カラーガルバリウム鋼板製折板屋根 30°ル-166/30°コ同等品) (GB): 鉄骨部材表し SOP	—————	
既存部	販売・展示コーナー	—————	土間コンクリート t=150 コ押し下地	半硬質コンポーションビニル床タイル張り	杉羽目板張り t=15	木製胴縁	既存 改修 (W): PB t=12.5ジョイント部パテ処理の上 リシン吹付仕上 (W東面): 既存仕上の上、 PB t=9.5ジョイント部パテ処理の上、EP塗装	木製野縁	(CE): 珪酸カルシウム板 t=6の上、EP塗装仕上 (GB): 木軸組表し	塩ビ製 ※東側(増築側)壁面の一部を改修
	軽食コーナー	—————	土間コンクリート t=150 コ押し下地	半硬質コンポーションビニル床タイル張り	杉羽目板張り t=15	木製胴縁	(W): PB t=12.5ジョイント部パテ処理の上 リシン吹付仕上 (C): 木軸組表し	木製野縁	(CE): 珪酸カルシウム板 t=6の上、EP塗装仕上	塩ビ製 ※改修箇所なし
	厨房コーナー	2400	—————	土間コンクリート t=150 コ押しの上 珪酸樹脂塗床仕上	珪酸樹脂塗床仕上	木製胴縁	(W): 珪酸カルシウム板 t=6の上 陶器質タイル100×100接着貼り	木製野縁	(CE): 珪酸カルシウム板 t=6の上、EP塗装仕上	塩ビ製 ※改修箇所なし
	事務室(休憩スペース含む)	2400	土間コンクリート t=150 コ押し下地	長尺塩ビシート張り	ソフト巾木	木製胴縁	(W): PB t=12.5の上、ビニルクロス張り	木製野縁	(CE): 珪酸カルシウム板 t=6の上、EP塗装仕上	塩ビ製 ※改修箇所なし
	便所	2400	土間コンクリート t=150	珪酸下地の上、せっ器質タイル100×100貼り	—————	木製胴縁	(W): 珪酸カルシウム板 t=6の上 陶器質タイル100×100接着貼り	木製野縁	(CE): 珪酸カルシウム板 t=6の上、EP塗装仕上	塩ビ製 ※改修箇所なし
	倉庫	2400	—————	土間コンクリート t=150 コ押し	珪酸コ押し	木製胴縁	(W): PB t=12.5の上、EP塗装仕上	木製野縁	(CE): 珪酸カルシウム板 t=6の上、EP塗装仕上	塩ビ製 ※改修箇所なし
	機械室	2400	—————	土間コンクリート t=150 コ押し	珪酸コ押し	木製胴縁	(W): PB t=12.5の上、EP塗装仕上	木製野縁	(CE): 珪酸カルシウム板 t=6の上、EP塗装仕上	塩ビ製 ※改修箇所なし
	廊下	2400	土間コンクリート t=150 コ押し下地	長尺塩ビシート張り	ソフト巾木	木製胴縁	(W): PB t=12.5の上、ビニルクロス張り	木製野縁	(CE): 化粧PB t=9.5張り	塩ビ製 ※改修箇所なし



■撤去凡例

- 独立基礎撤去範囲
- ボーチ、犬走りインターロッキングt=60撤去範囲
 ※再利用するため適宜保管のこと
- イベントスペース インターロッキングt=60撤去範囲
 ※再利用するため適宜保管のこと

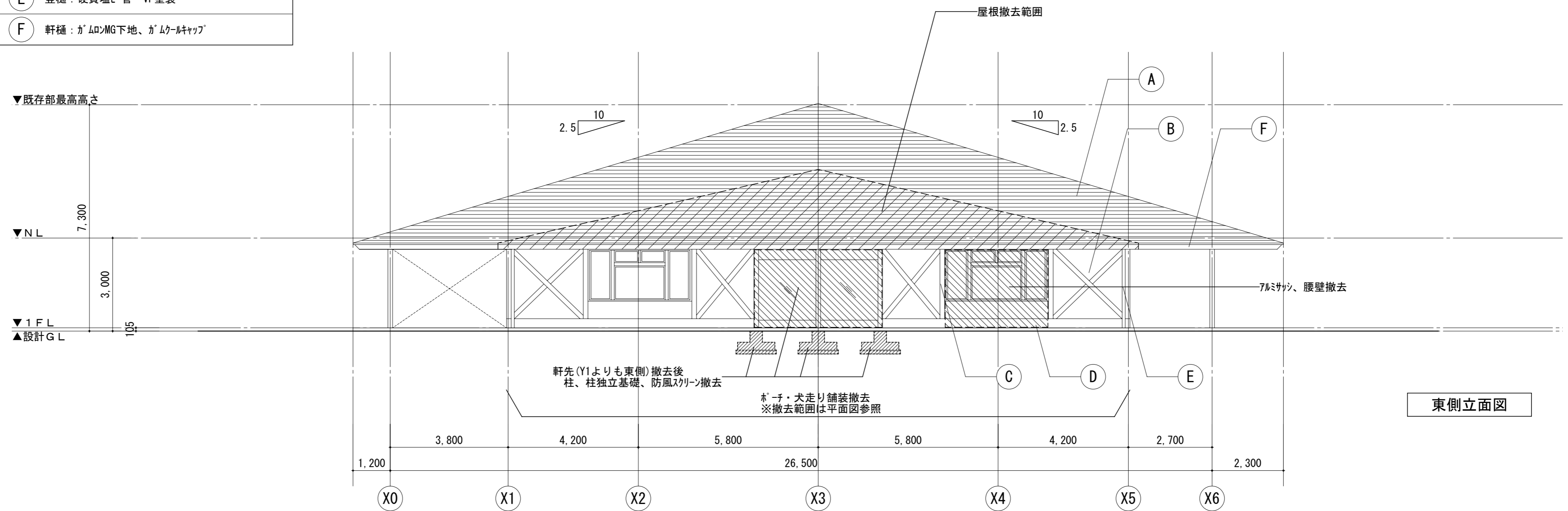


- 撤去凡例
- 屋根改修に伴う仕上材及び下地合板撤去
※木軸組存置
 - 屋根(仕上、下地、軸組含む)全て撤去範囲

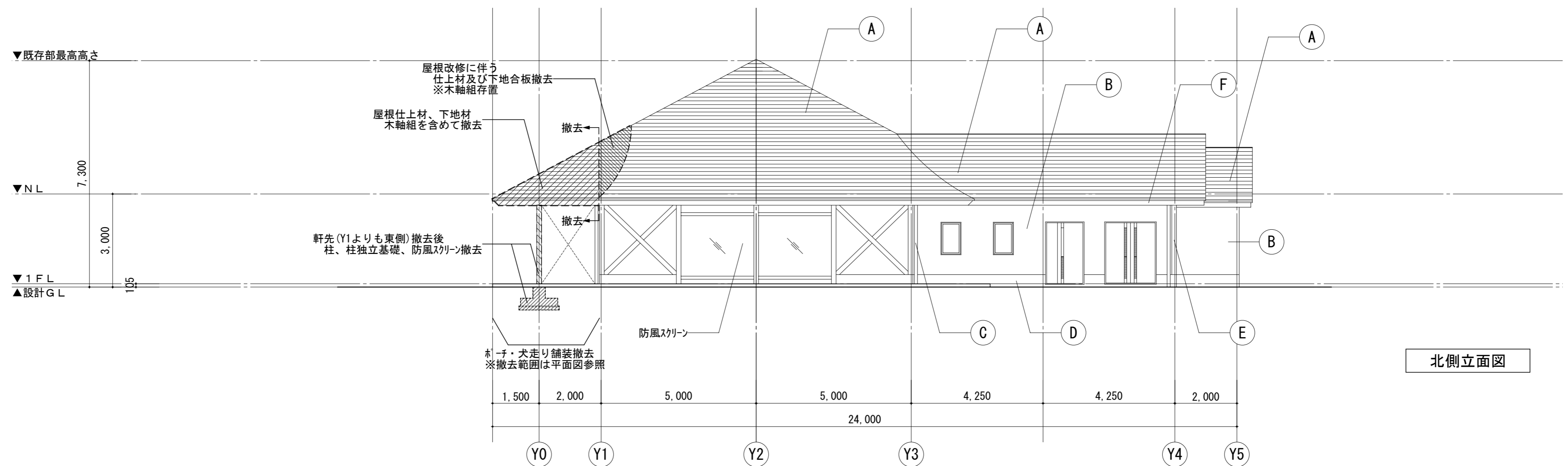
訂正	月日		工事名 道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事	【既存・撤去】屋根伏図	縮尺 1/100	図面No. A-15	設計No.					園建築事務所 <small>竹内 秀雄 一級建築士 第137409号</small>
					年月日							

■外部仕上凡例

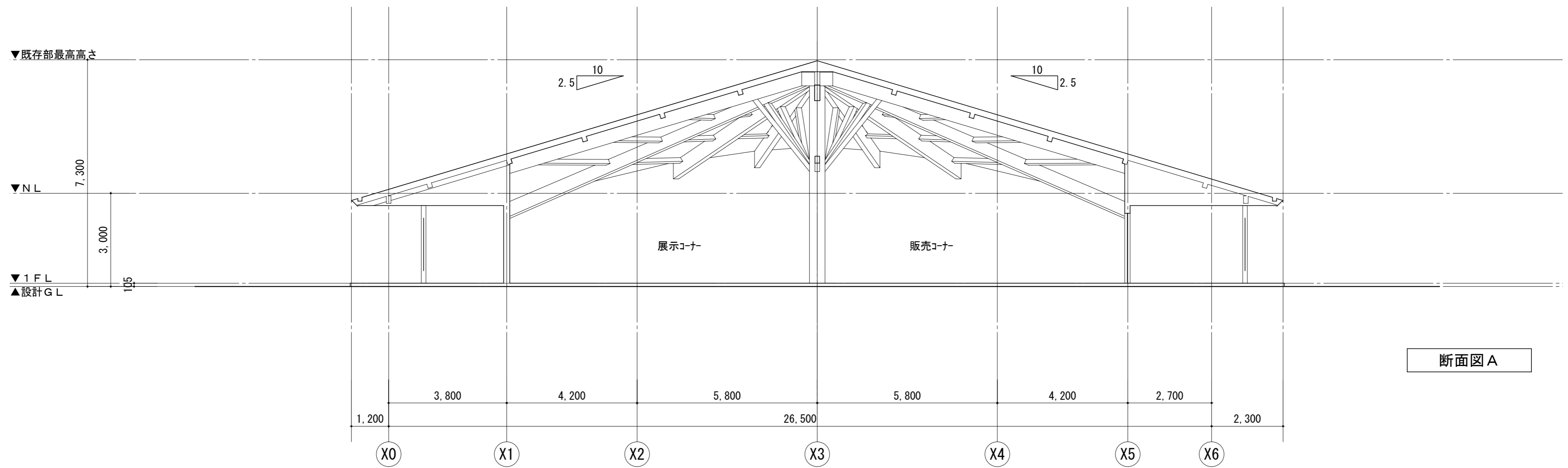
既存部	(A)	屋根 1 : 7mm箔圧着不燃ソーラー文字葺き
	(B)	外壁 1 : 吹付塗装仕上(かき落とし)
	(C)	化粧柱 : 松集成材150角
	(D)	巾木 : エルケル刷毛引き
	(E)	縦樋 : 硬質塩ビ管 VP塗装
	(F)	軒樋 : ガムロンMG下地、ガムケルキャップ



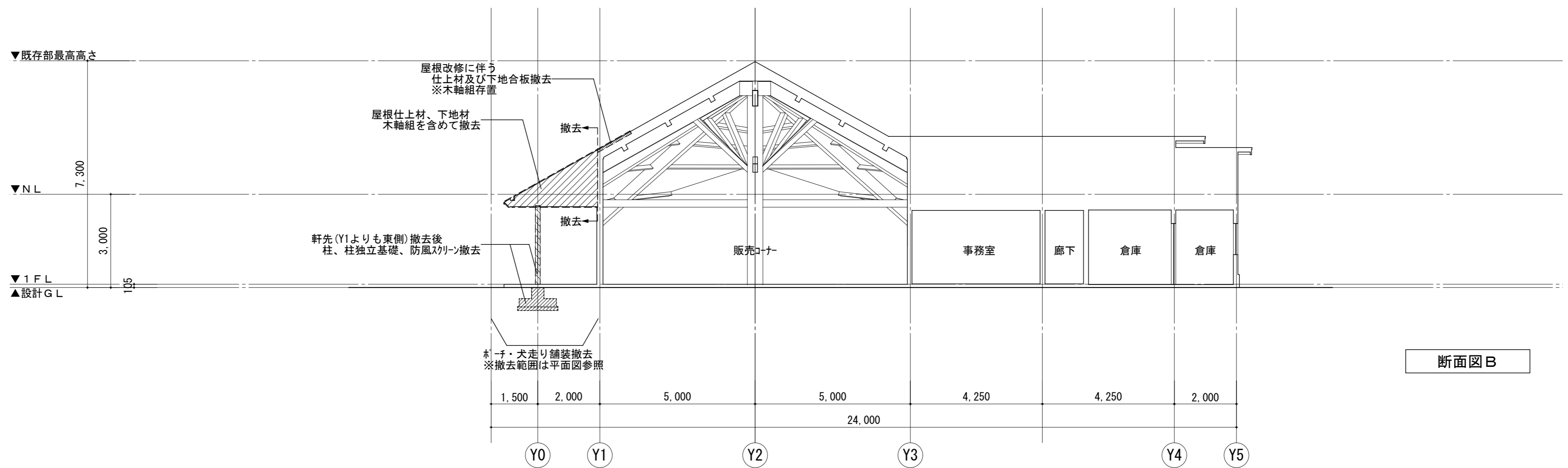
東側立面図



北側立面図

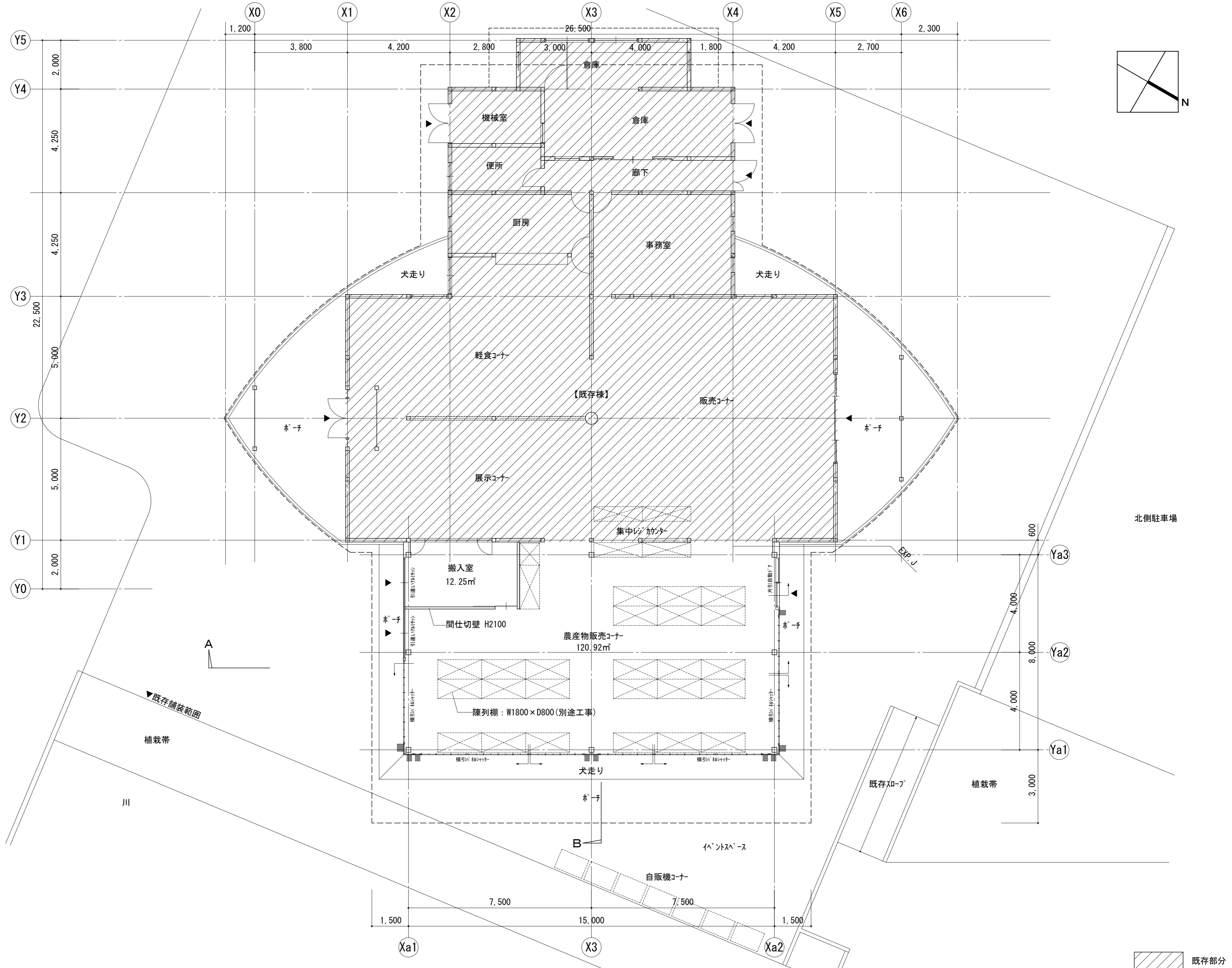


断面図A

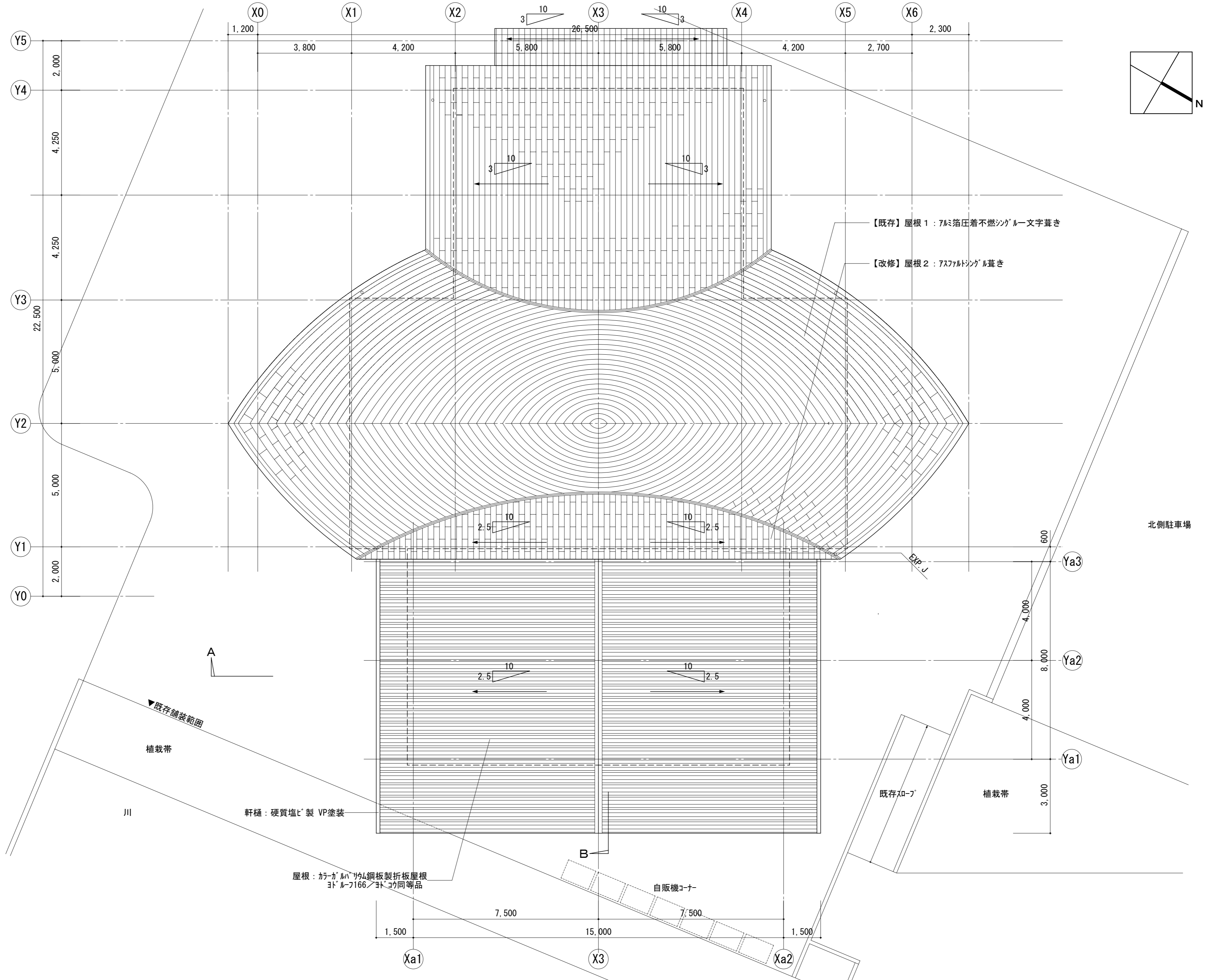


断面図B

訂正	月日		工事名 道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事	【既存・撤去】断面図	縮尺 1/100	図面No. A-17	設計No.				園建築事務所 竹内 秀雄 一級建築士 第137409号
					年月日						



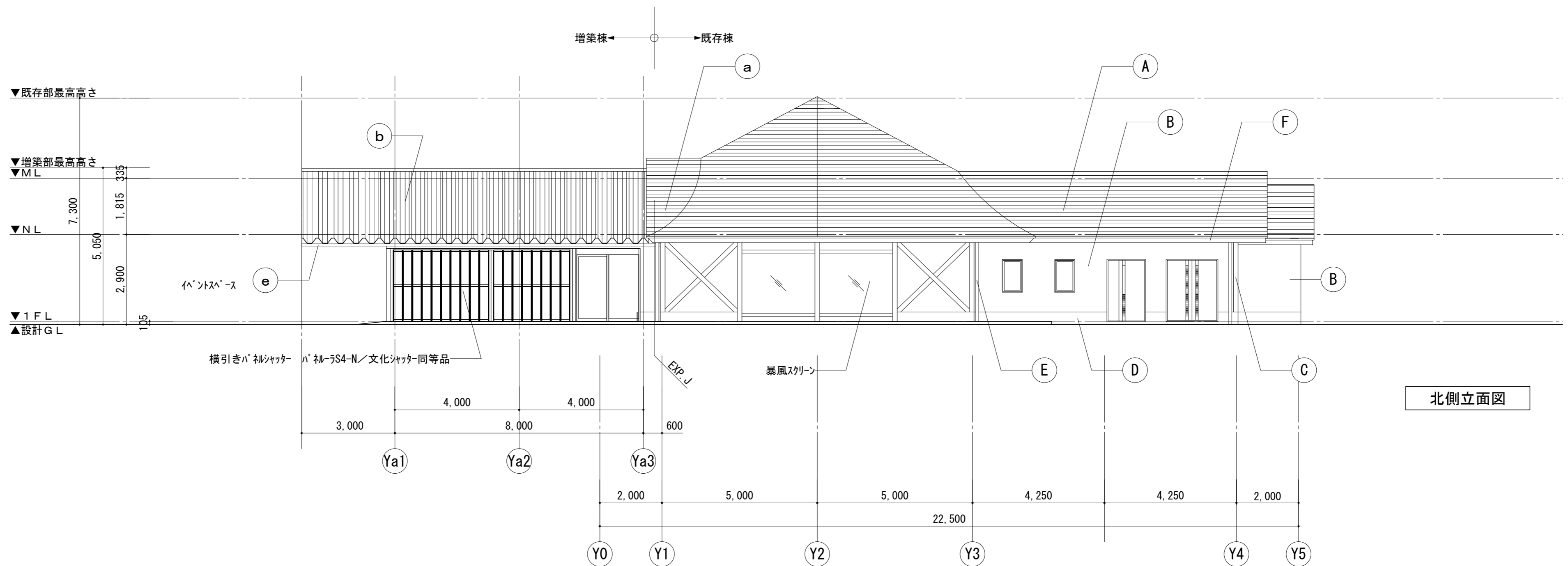
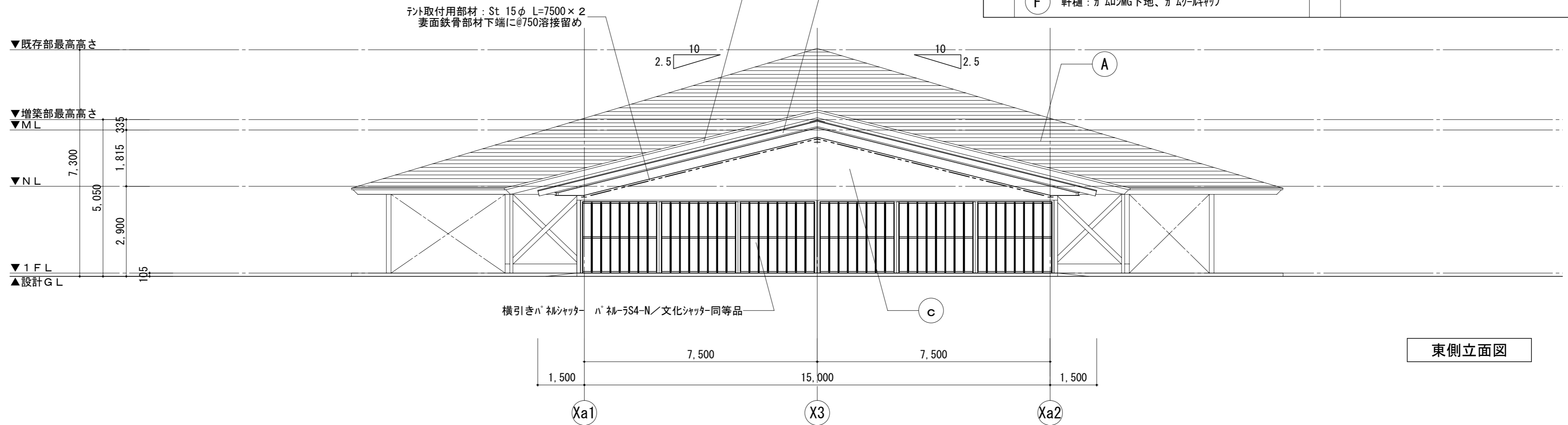
訂正	月日		工事名 道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事	【改修・増築】平面図	縮尺	1/100	図面No. A-18	設計No.					園建築事務所 竹内 秀雄 一級建築士 第137409号
					年月日								

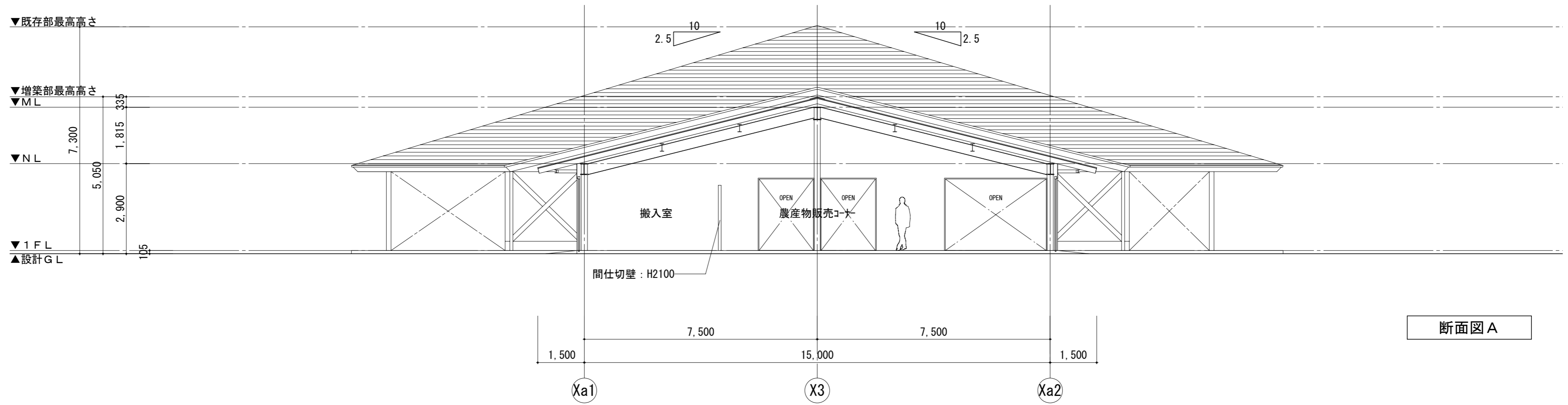


訂正	月日		工事名 道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事	【改修・増築】屋根伏図	縮尺 1/100	図面No. A-19	設計No.				園建築事務所 竹内 秀雄 一級建築士 第137409号
					年月日						

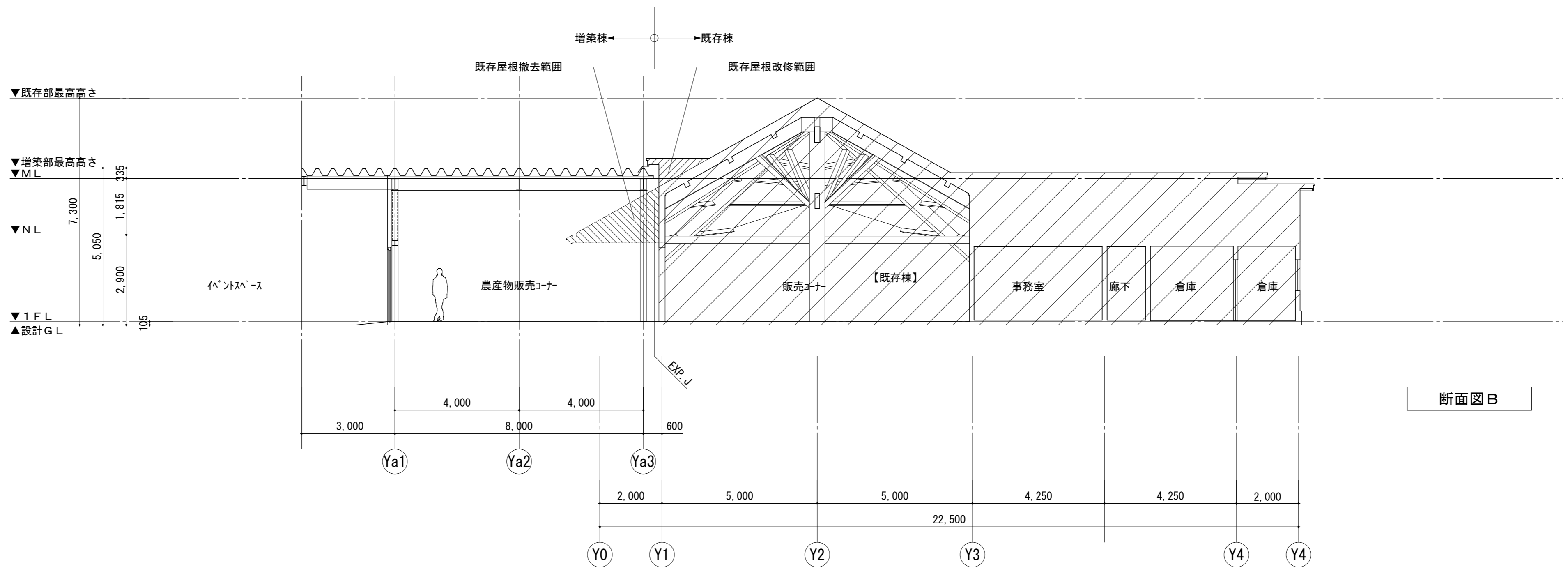
■外部仕上凡例

既存部	(A)	屋根 1 : アルミ箔圧着不燃シingle文字葺き	増築部	(a)	屋根 2 : アスファルトシingle葺き
	(B)	外壁 1 : 吹付塗装仕上(かき落とし)		(b)	屋根 3 : カラーガルバリウム鋼板折板屋根 ヨルル-7166/ヨトコ同等品※雪止金物付
	(C)	化粧柱 : 松集成材150角		(c)	外壁 2 : カラーガルバリウム製角波パントル張り
	(D)	巾木 : モルタル刷毛引き		(d)	巾木 : モルタル刷毛引き
	(E)	縦樋 : 硬質塩ビ管 VP塗装		(e)	軒樋・縦樋 : 硬質塩ビ製 VP塗装
	(F)	軒樋 : ガムロンMG下地、ガムケルキャップ			



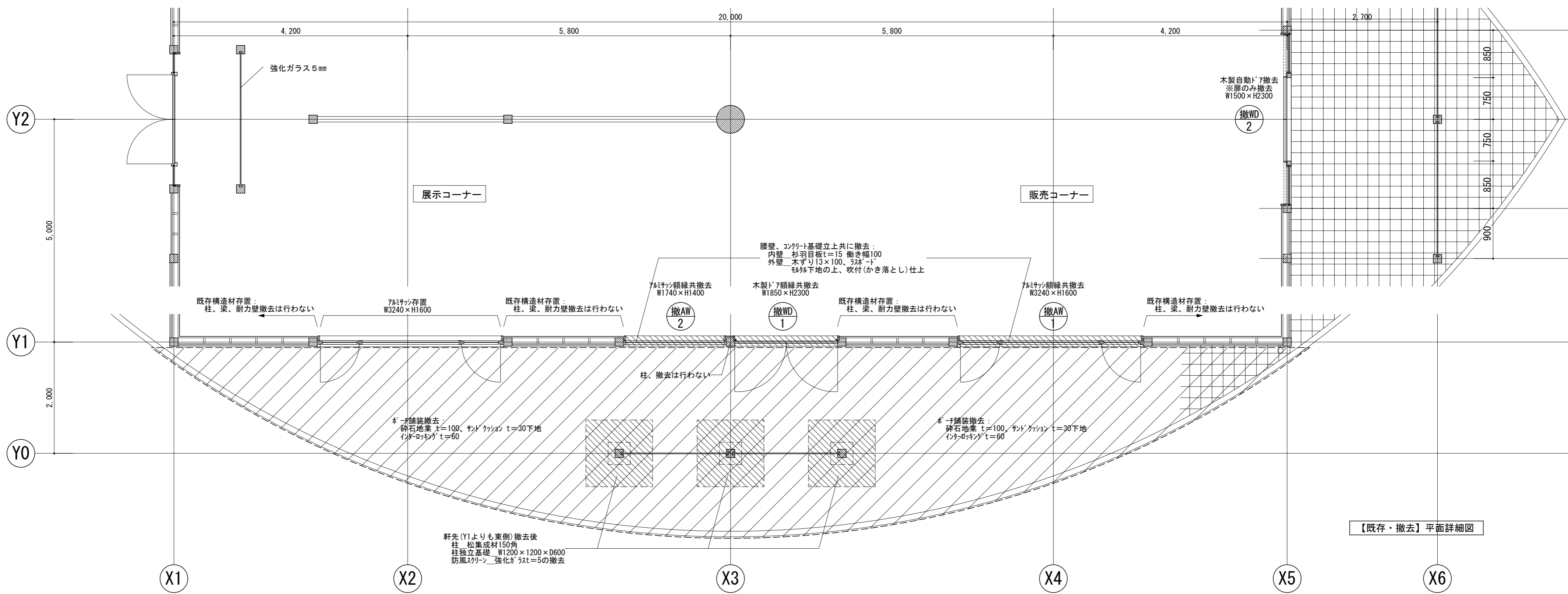


断面図 A

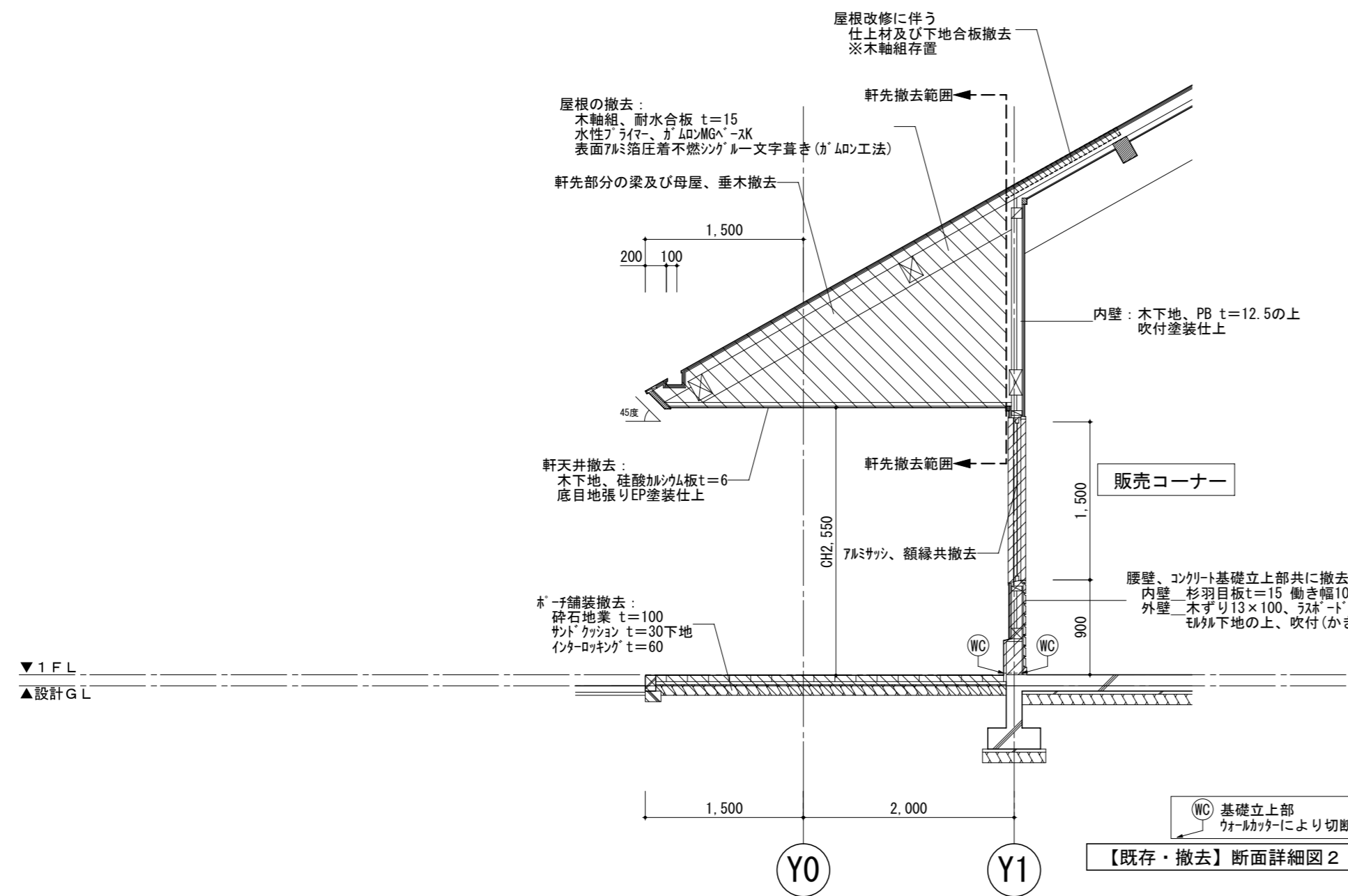
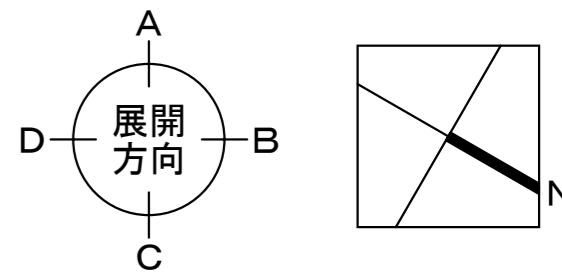


断面図 B

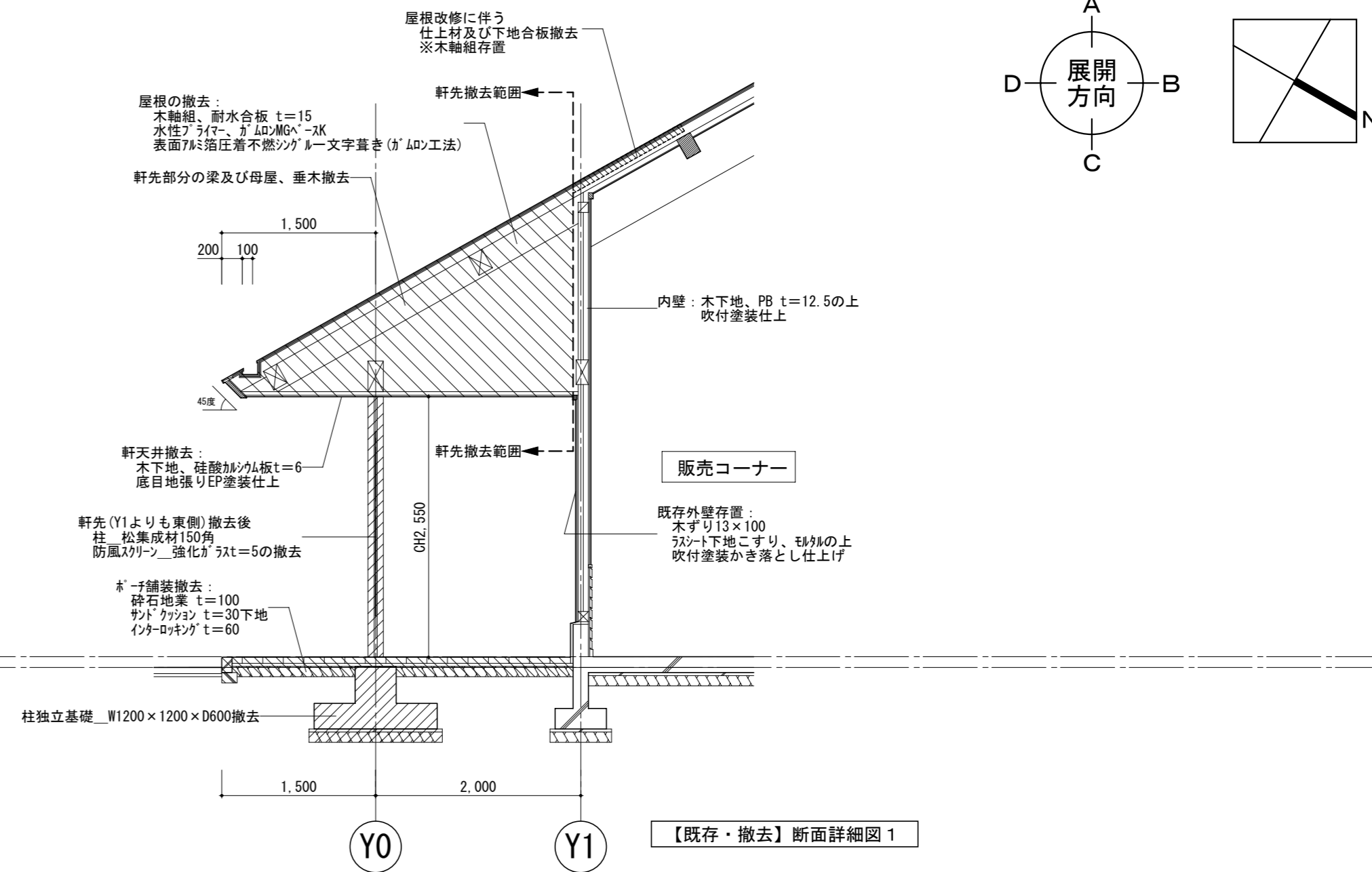
訂正	月日		工事名 道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事	【改修・増築】断面図	縮尺 1/100	図面No. A-21	設計No.				園建築事務所 竹内 秀雄 一級建築士 第137409号
					年月日						



【既存・撤去】平面詳細図

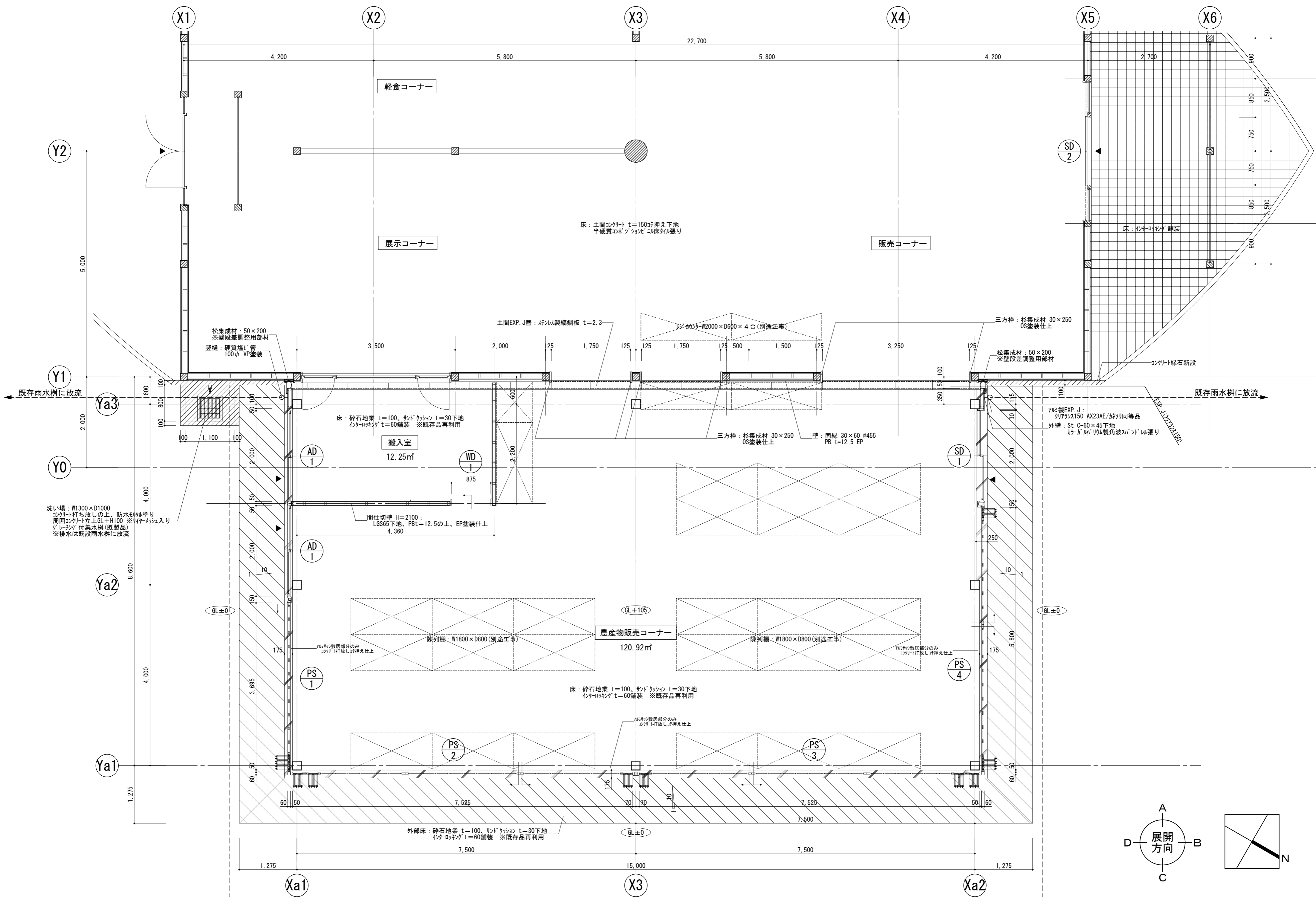


【既存・撤去】断面詳細図 2

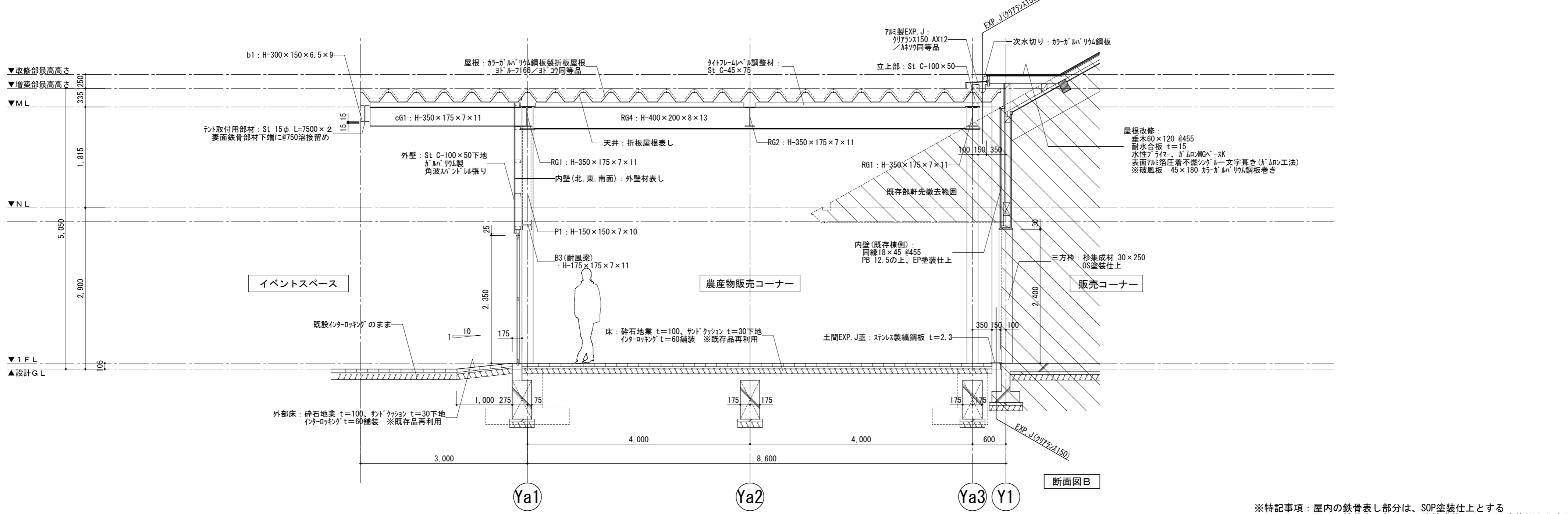
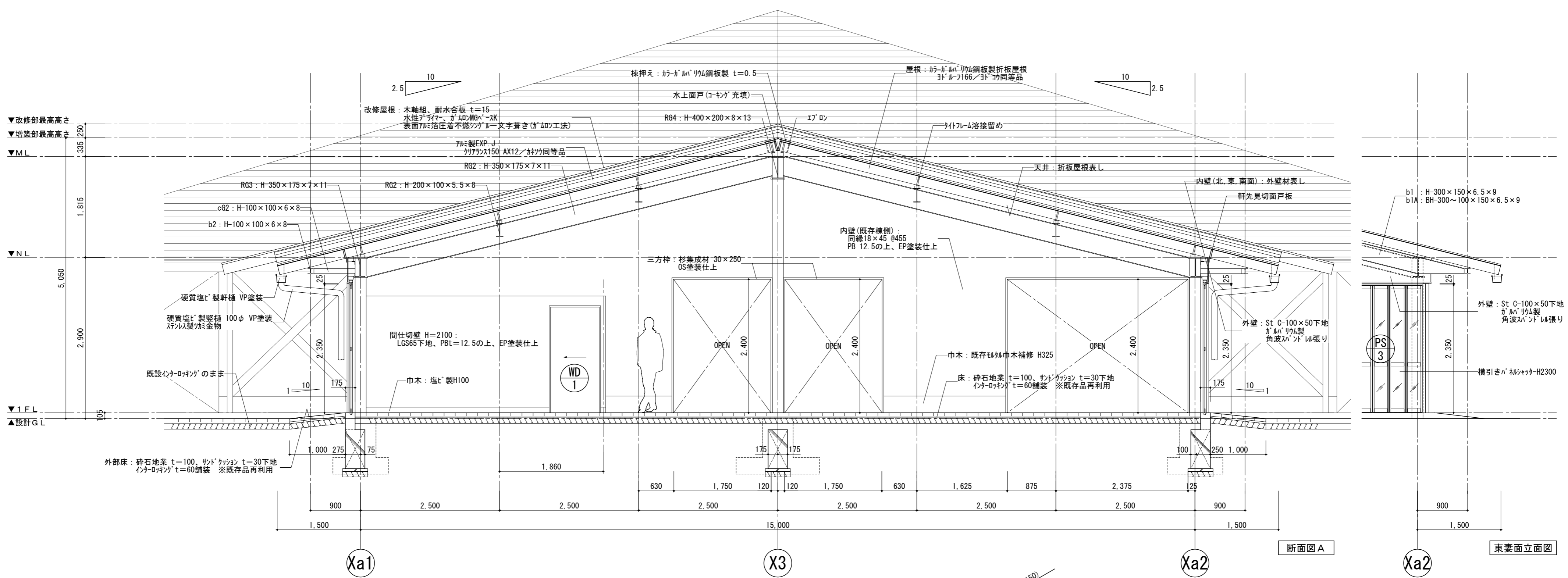


【既存・撤去】断面詳細図 1

訂正	月日		工事名 道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事	【既存・撤去】平面詳細図	縮尺 1/50	図面No. A-22	設計No.			園建築事務所 竹内 秀雄 一級建築士 第137409号
				【既存・撤去】断面詳細図	年月日					

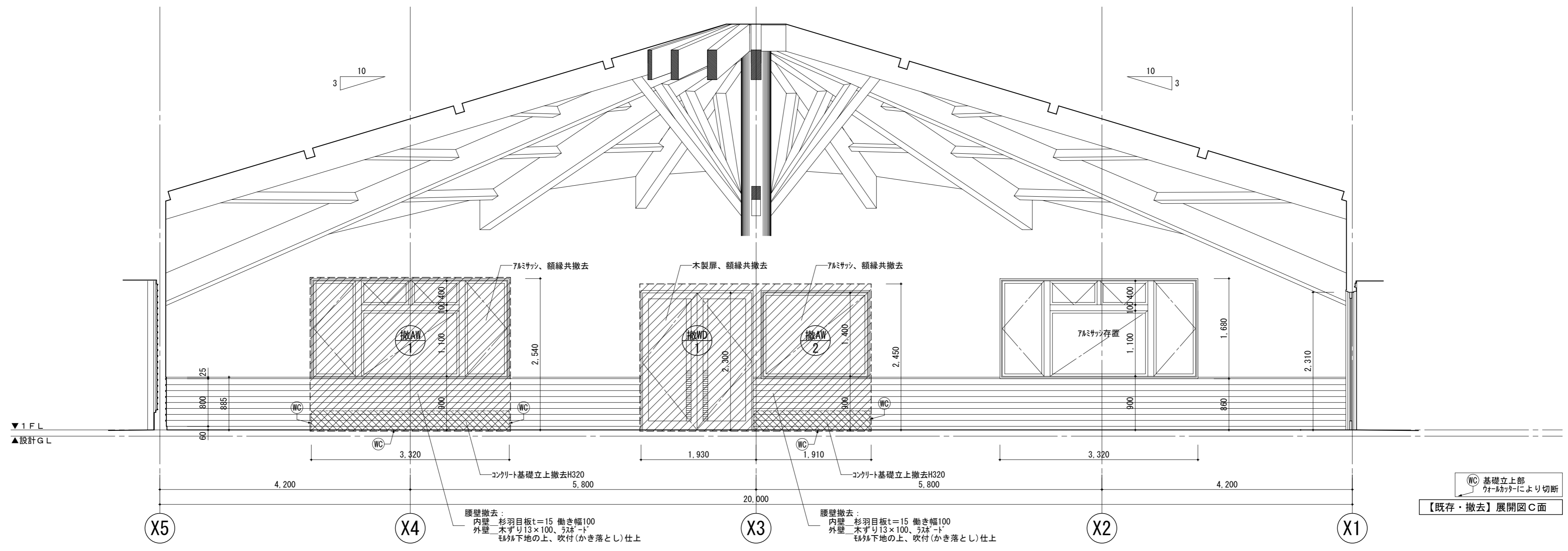


訂正	月日		工事名 道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事	【改修・増築】平面詳細図	縮尺 1/50	図面No. A-23	設計No.				園建築事務所 竹内 秀雄 一級建築士 第137409号

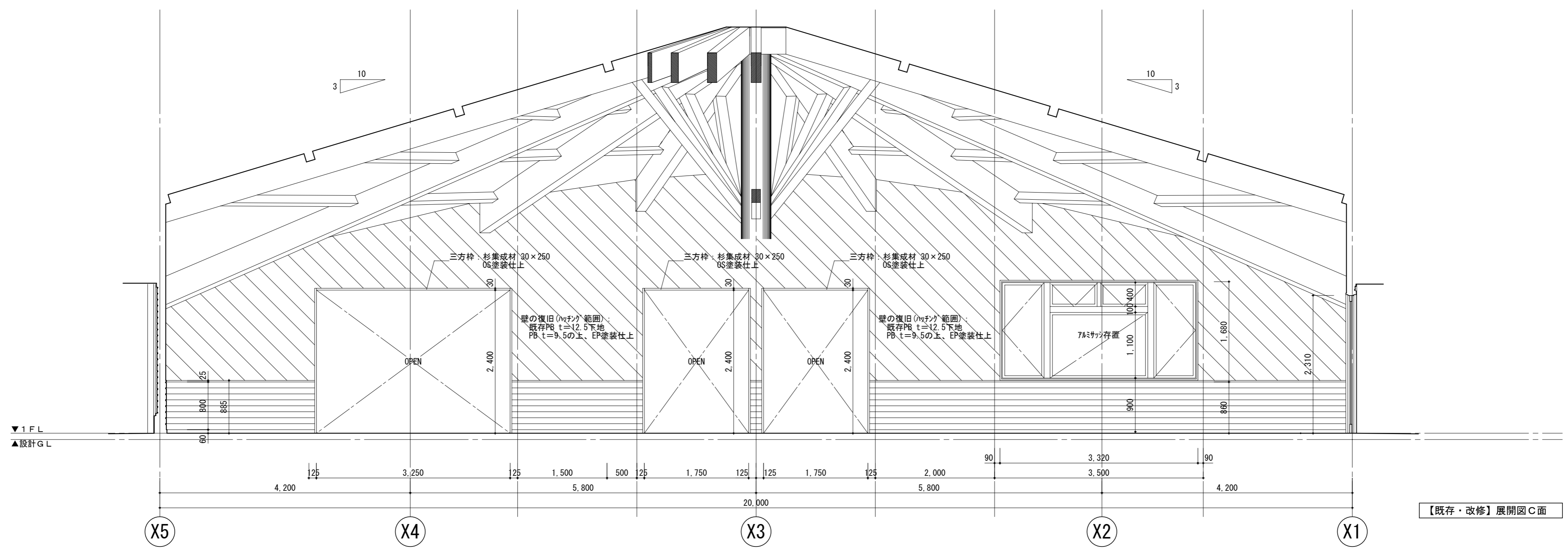


※特記事項：屋内の鉄骨表し部分は、SOP塗装仕上とする
屋外の鉄骨表し部分は、防錆塗装の上、SOP塗装仕上とする

訂正	月日	工事名	【改修・増築】断面詳細図	縮尺 1/50	図面No.	設計No.	園建築事務所 竹内 秀雄 一級建築士 第137409号
		道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事		年月日	A-24		

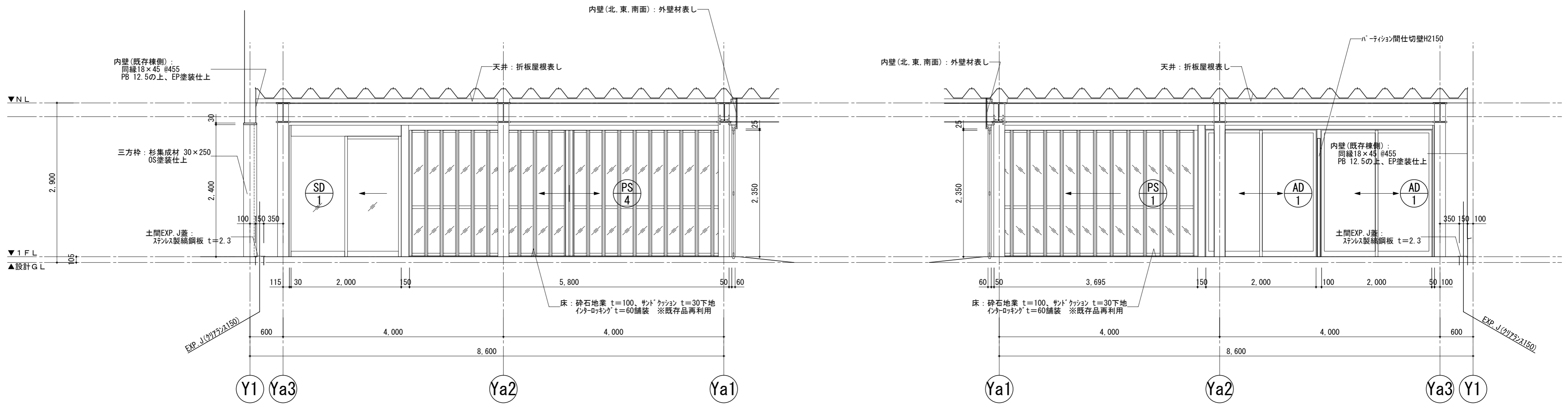


【既存・撤去】展開図C面

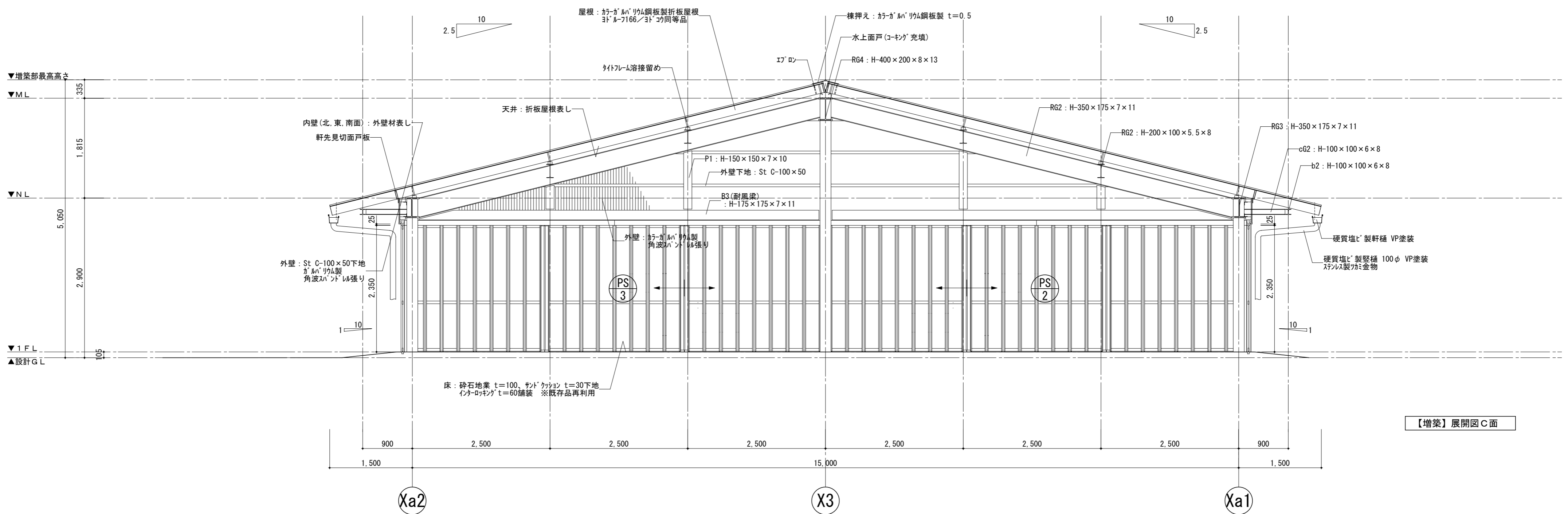


【既存・改修】展開図C面

訂正	月日		工事名 道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事	【既存・撤去/改修】展開図	縮尺 1/50	図面No. A-25	設計No.			園建築事務所 竹内 秀雄 一級建築士 第137409号
					年月日					

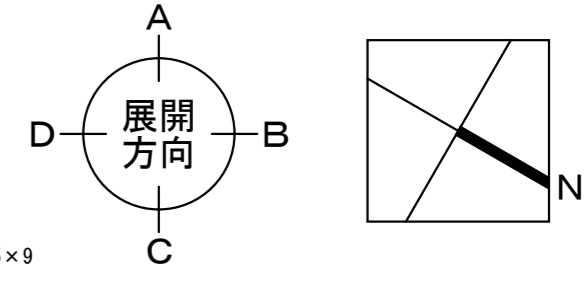
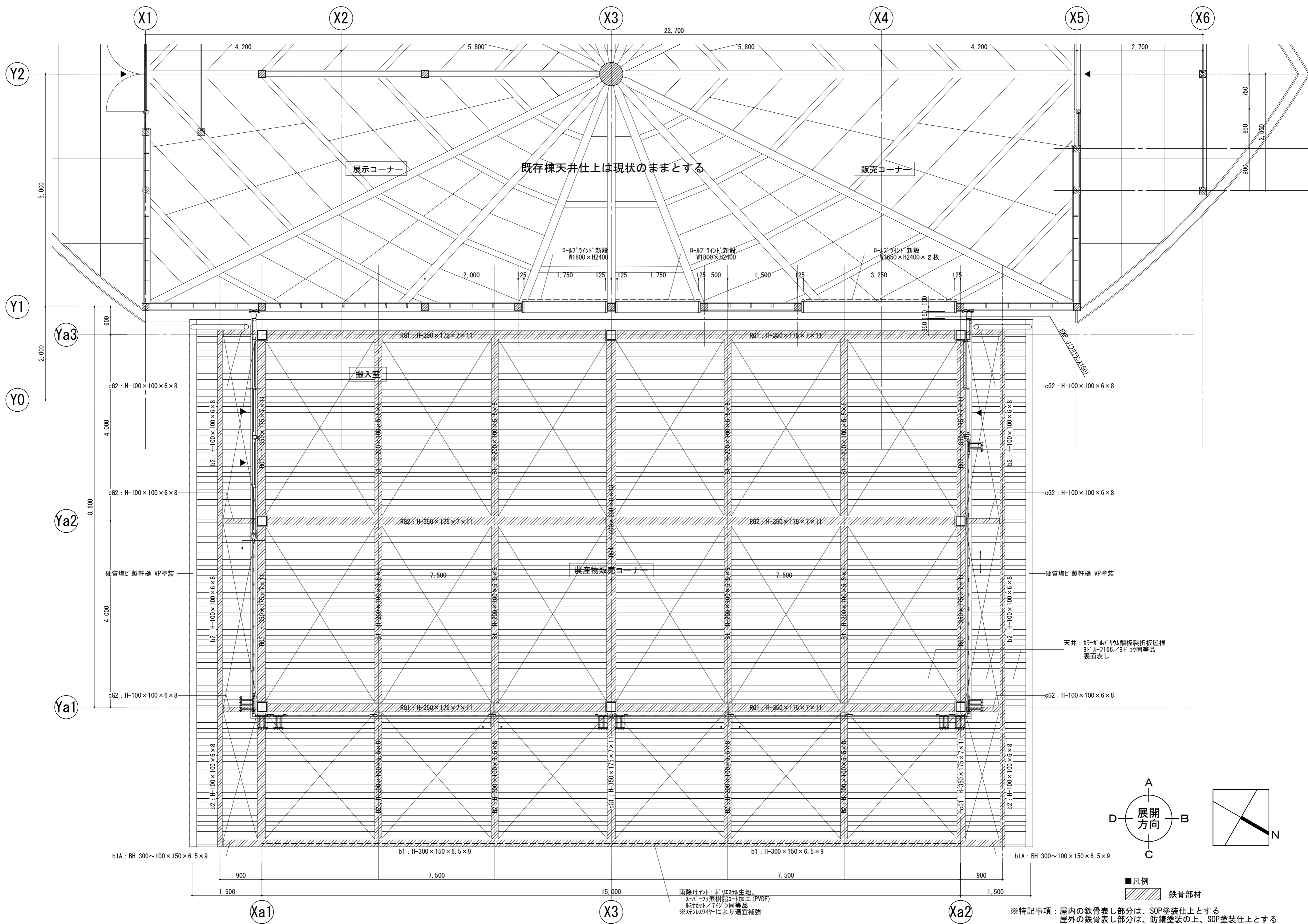


【増築】展開図D面

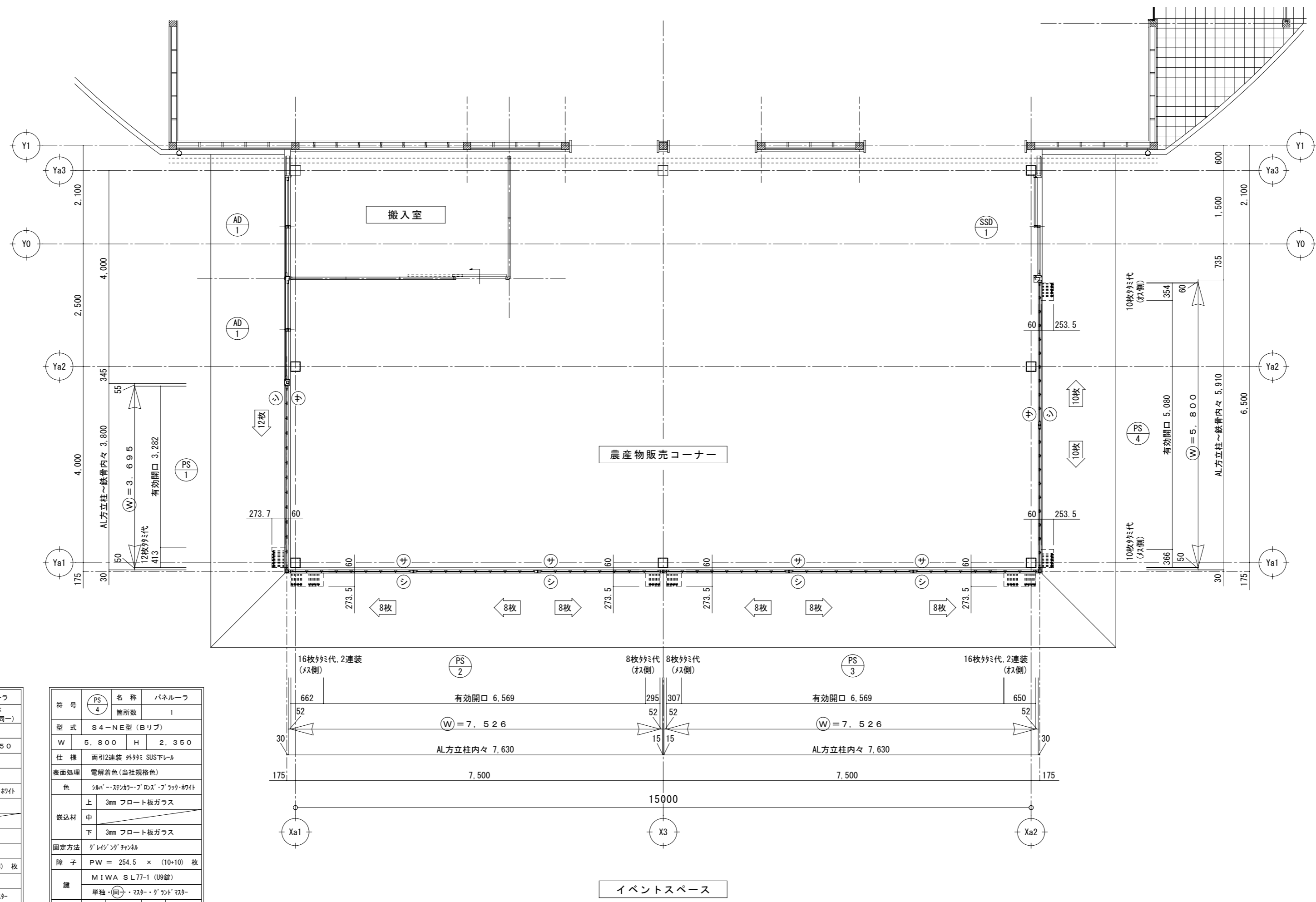


※特記事項: 屋内の鉄骨表し部分は、SOP塗装仕上とする
屋外の鉄骨表し部分は、防錆塗装の上、SOP塗装仕上とする

訂正	月日		工事名	【改修・増築】展開図	縮尺 1/50	図面No.	設計No.	園建築事務所	
			道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事		年月日	A-26		竹内 秀雄 一級建築士 第137409号	



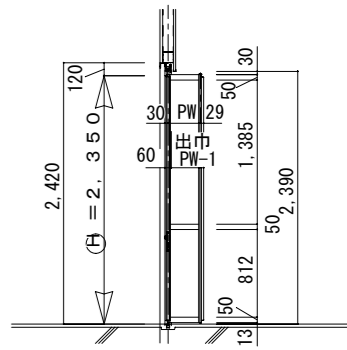
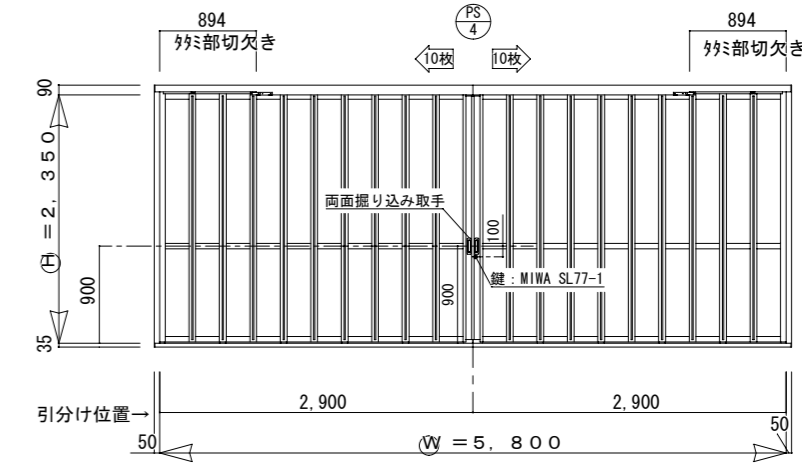
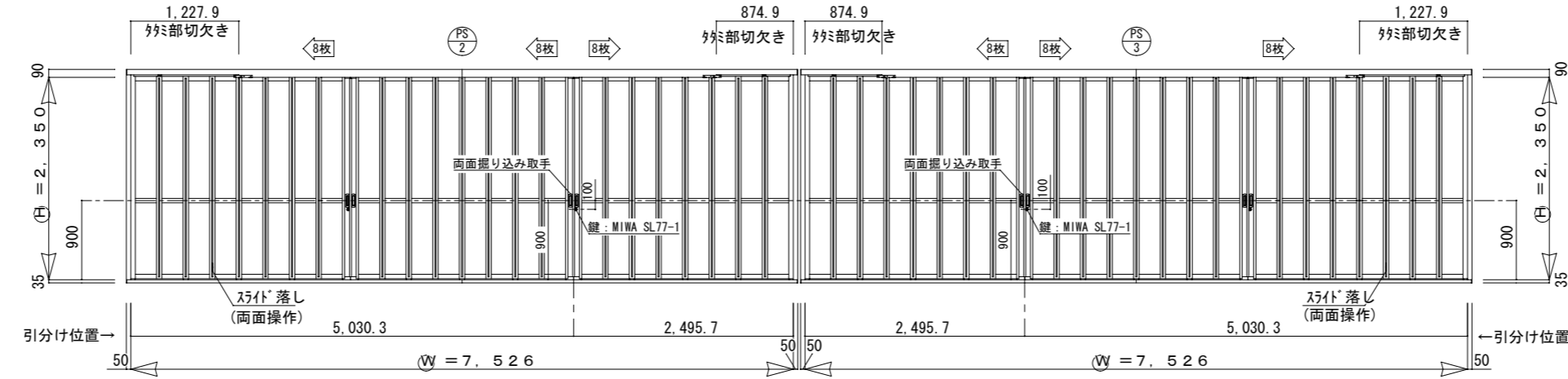
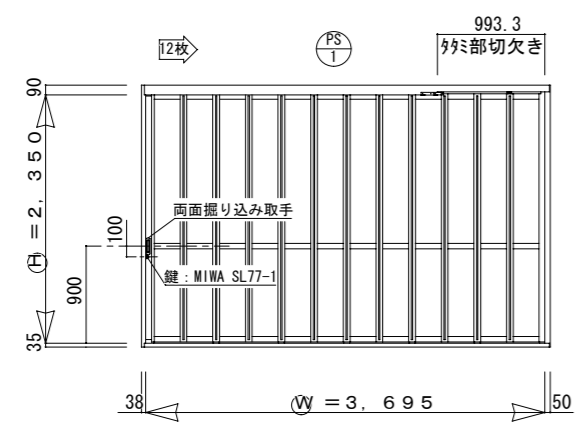
訂正	月日		工事名 道の駅 瑞穂の里・さらびき増築工事	【改修・増築】天井伏図	縮尺 1/50	図面No. A-27	設計No.			園建築事務所 竹内 秀雄 一級建築士 第137409号
	年月日									

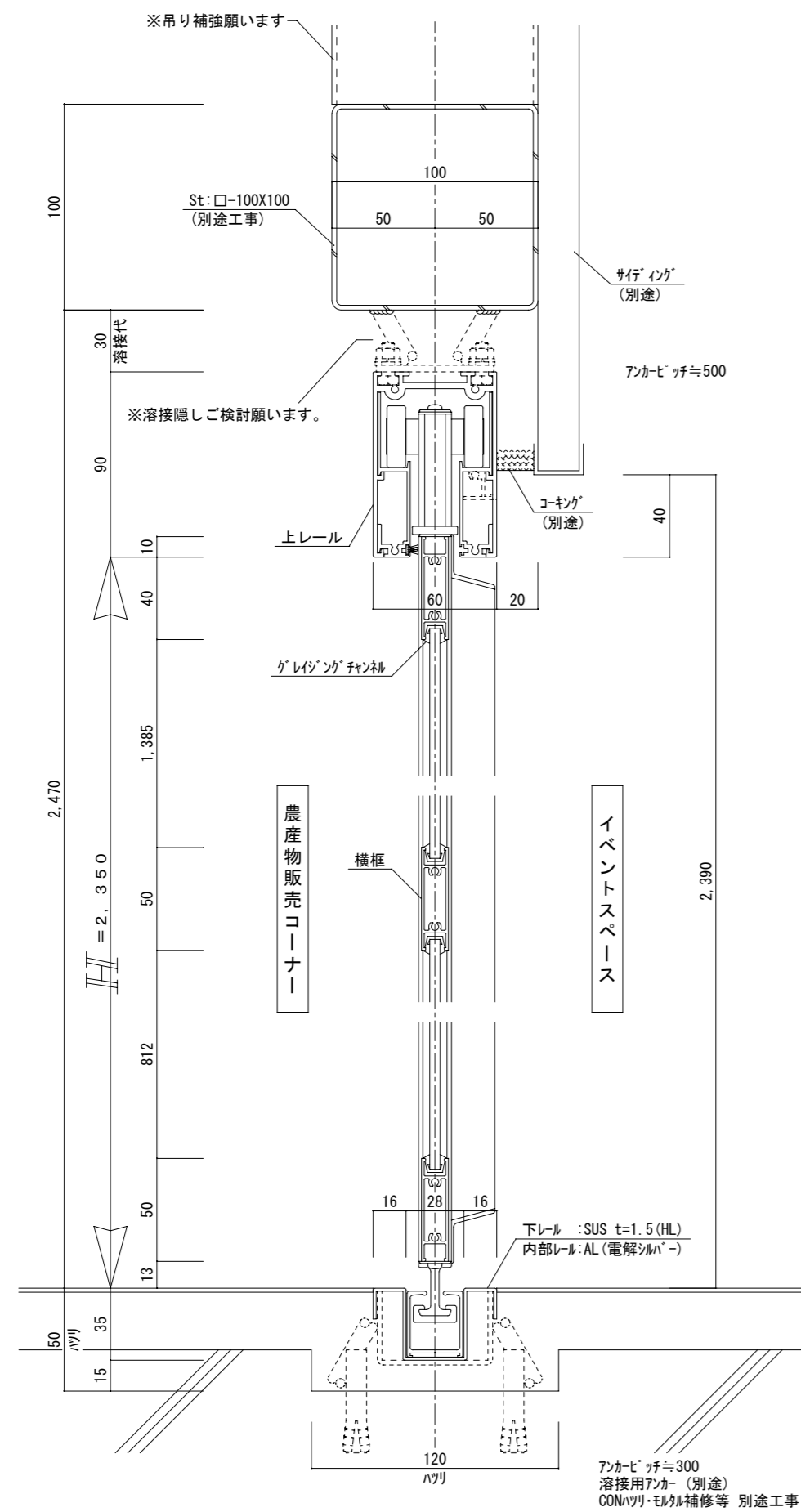


符号	PS 1	名称	パネルーラ
面所数	1		
型式	S4-NE型 (Bリブ)		
W	3,695	H	2,350
仕様	片引単装 外枠: SUS下レール		
表面処理	電解着色 (当社規格色)		
色	シルバー・ステンレス・ブロンズ・ブラック・ホワイト		
嵌込材	上	3mm フロート板ガラス	
	中		
	下	3mm フロート板ガラス	
固定方法	ゲージング・ハンダ		
障子	PW = 274.67 × 12 枚 MIWA SL77-1 (U9錠)		
鍵	単独・両・マスタ・ゲージングマスタ		
四方枠取付方法	上レール	溶接	吊元枠
	戸当枠	溶接	下レール
特記	総重量 約100kg ・スライド落し×1 総重量 約200kg 水密・気密・遮音性はあります		

符号	PS 2(3)	名称	パネルーラ
面所数	各1体 (製品寸法同一)		
型式	S4-NE型 (Bリブ)		
W	7,526	H	2,350
仕様	両引3連装 外枠: SUS下レール		
表面処理	電解着色 (当社規格色)		
色	シルバー・ステンレス・ブロンズ・ブラック・ホワイト		
嵌込材	上	3mm フロート板ガラス	
	中		
	下	3mm フロート板ガラス	
固定方法	ゲージング・ハンダ		
障子	PW = 274.46 × (8+8) 枚 MIWA SL77-1 (U9錠)		
鍵	単独・両・マスタ・ゲージングマスタ		
四方枠取付方法	上レール	溶接	吊元枠
	吊元枠	直付	下レール
特記	・スライド落し×1 総重量 約200kg 水密・気密・遮音性はあります		

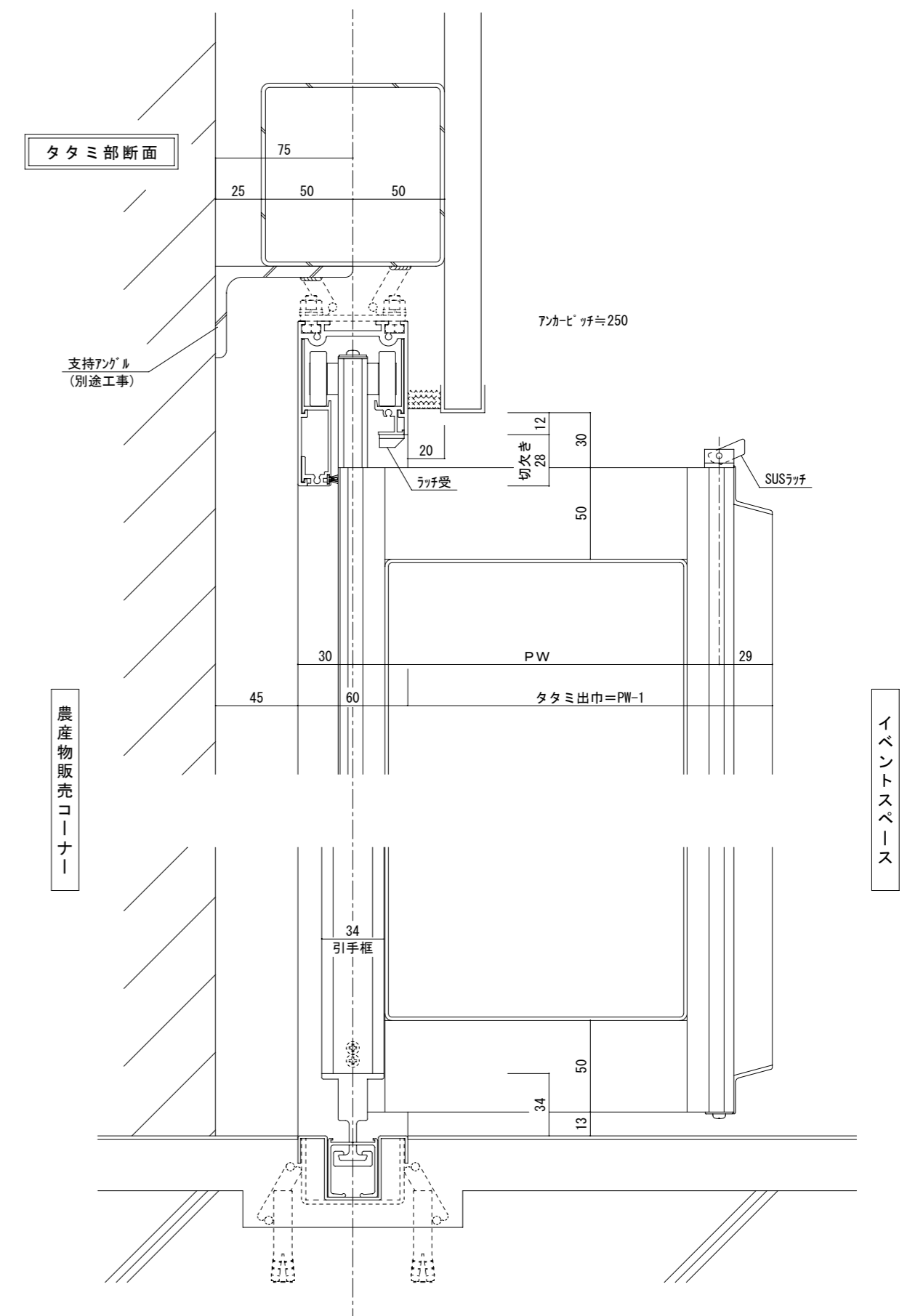
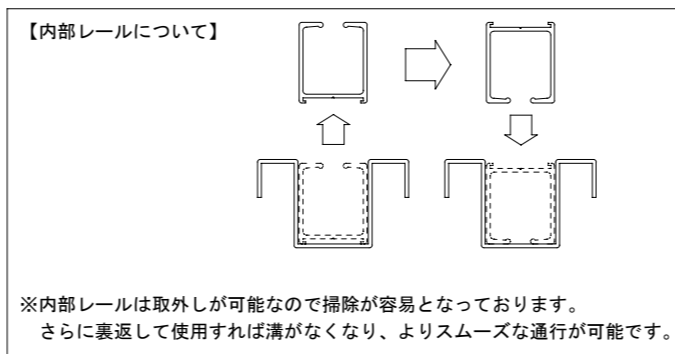
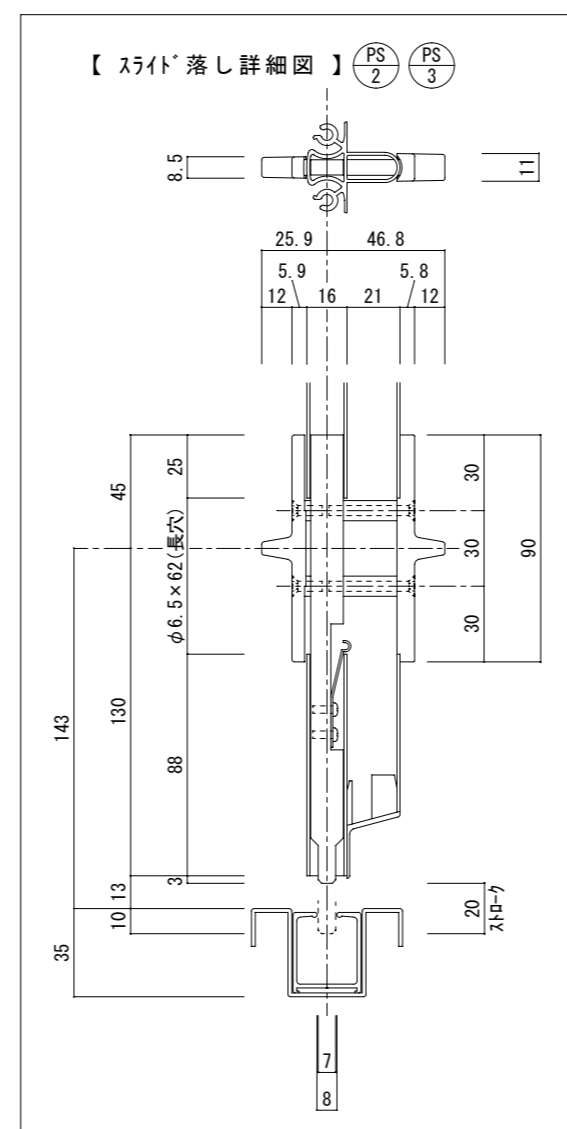
符号	PS 4	名称	パネルーラ
面所数	1		
型式	S4-NE型 (Bリブ)		
W	5,800	H	2,350
仕様	両引2連装 外枠: SUS下レール		
表面処理	電解着色 (当社規格色)		
色	シルバー・ステンレス・ブロンズ・ブラック・ホワイト		
嵌込材	上	3mm フロート板ガラス	
	中		
	下	3mm フロート板ガラス	
固定方法	ゲージング・ハンダ		
障子	PW = 254.5 × (10+10) 枚 MIWA SL77-1 (U9錠)		
鍵	単独・両・マスタ・ゲージングマスタ		
四方枠取付方法	上レール	溶接	吊元枠
	吊元枠	直付	下レール
特記	総重量 約155kg 水密・気密・遮音性はあります		



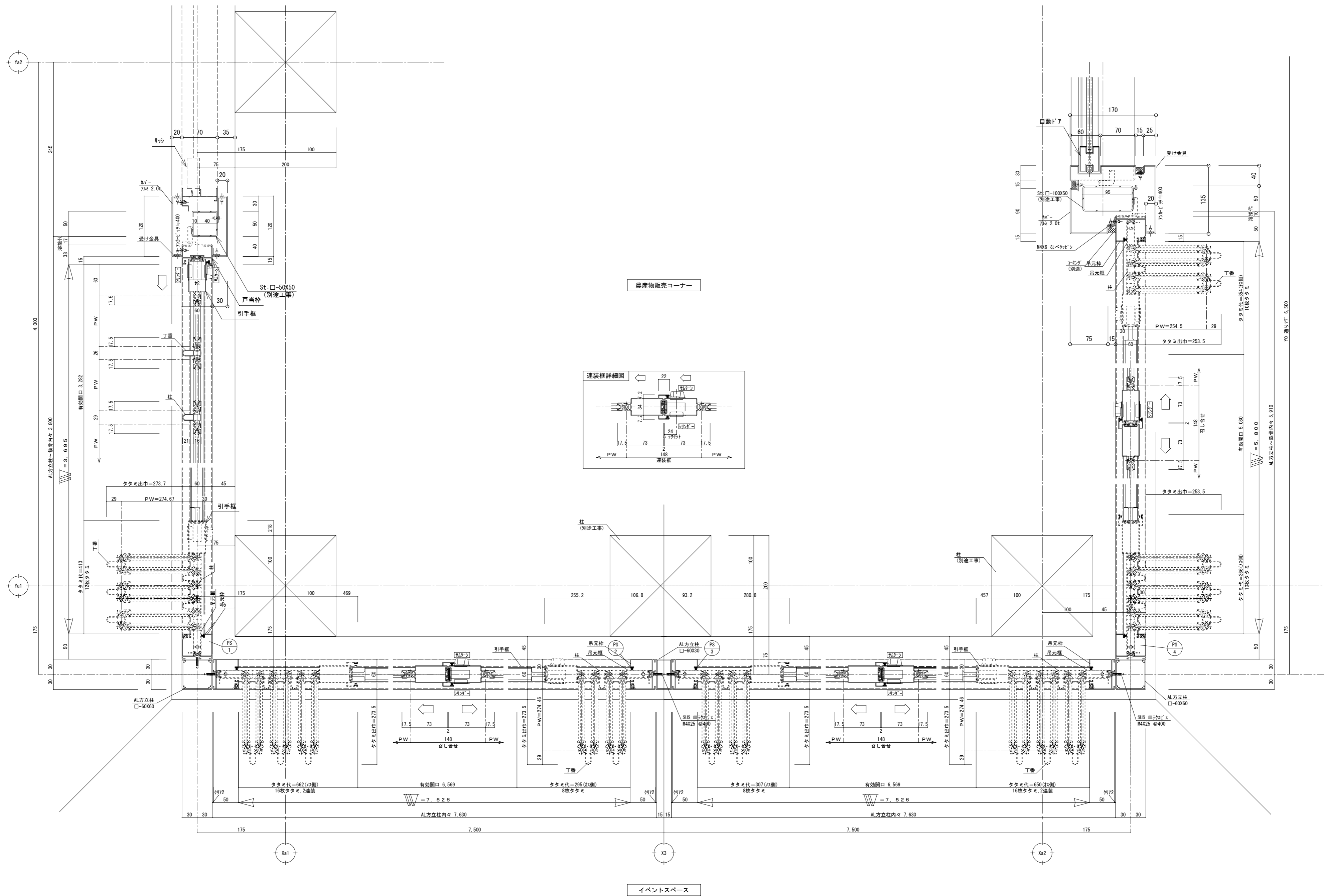


※製品総重量【PS-1】約100kg、【PS-2、3】約200kg、【PS-4】約155kg
 上吊り製品の為、荷重に耐えられる下地及び吊り補強をお願いします。
 製品にたわみが発生しますと動作に支障が出る恐れがあります。

計4体 同納まり



訂正	月日		工事名 道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事	建具詳細図 1	縮尺 1/3 年月日	図面No. A-30	設計No.				園建築事務所 竹内 秀雄 一級建築士 第137409号



訂正	月日		工事名	建具詳細図 1	縮尺	図面No.	設計No.	園建築事務所 竹内 秀雄 一級建築士 第137409号
			道の駅「瑞穂の里さらびき」改修工事		1/100	A-31		
					年月日			